

CSR Report 2020

FDKグループ CSRレポート



スマートエナジーパートナー

FDKグループは、スマートエナジーパートナーとして、先進技術を結集し、お客様に電気エネルギーを安心して効率的に活用いただき、持続可能な社会の実現と発展に貢献してまいります。

■ 会社概要

会社名	FDK 株式会社 (FDK CORPORATION)
創立	1950年
本社	〒108-8212 東京都港区港南一丁目6番41号 芝浦クリスタル品川
資本金	31,709百万円 (2020年3月31日現在)
売上高	2019年度 (2019年4月1日から2020年3月31日) 連結: 62,123百万円
従業員数	連結: 3,030名 (2020年3月31日現在)
事業内容	各種一次・二次電池および蓄電デバイスならびにエレクトロニクス関連の素材・部品とそれらの応用製品・応用装置の製造および販売
主要製品	ニッケル水素電池、アルカリ乾電池、リチウム電池、マンガン乾電池、蓄電システム、各種強力ライト、電池製造設備、スイッチング電源、DC-DCパワーモジュール、トナー、液晶ディスプレイ用信号処理モジュール

■ 「FDKグループCSRレポート 2020」について

編集方針

FDKは、FDKグループのCSR基本方針にもとづく様々な活動をステークホルダーの皆様にご理解いただくために、2017年から「FDKグループCSRレポート」を発行しております。「FDKグループCSRレポート 2020」では、FDKグループの「価値創造アプローチ」とCSR基本方針にもとづく「7つの重点課題」の取り組みを中心にご報告いたします。

対象期間

2019年度(2019年4月1日~2020年3月31日)の活動を中心にご報告しています。(一部それ以外の期間の内容を含みます。)

対象範囲

FDKおよびFDKグループを対象としています。一部の報告は、FDK単体のものがあります。

参考にしたガイドライン

「FDKグループCSRレポート 2020」は、ISO26000 社会的責任に関する手引きや環境報告ガイドライン2012年版を参考に作成しています。

ISO26000(中核主題)のアイコン



お問い合わせ先

コーポレート本部 総務人事部
TEL:03-5715-7402
FAX:03-5715-7401
E-Mail:csr@fdk.co.jp

Contents

トップメッセージ 3

FDKグループの価値創造ストーリー

- 価値創造アプローチ 5
- 「10年の計」および「中期事業計画R1」について 7
- あるべき姿 9
- FDKのバリューチェーン 11
- CSRマネジメント 13
- 7つの重点課題 15

マネジメント体制

- コーポレート・ガバナンスの強化 17
- 内部統制システムの構築 18
- コンプライアンスの徹底 18
 - 安全衛生活動 19
 - リスクマネジメント 20

お客様・お取引先様とともに

- オファリング 21
- 品質保証活動 23

社会とのかかわり

- ステークホルダーとの対話と協力 25
- 従業員とのかかわり 27
 - 多様性の受容 27
 - 地球と社会に貢献する人材の育成 29

環境保全活動

- 地球環境保全への対応 31

概要、グループ会社 35

SDGs (Sustainable Development Goals)

持続可能な開発目標 (SDGs) とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標 (MDGs) の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成されています。



TOP MESSAGE

スマートエナジーパートナーとして、 FDKグループのビジョンを実現し、 持続可能な社会の実現と発展に貢献する。

2019年10月にFDKグループのさらなる経営体質強化と企業価値の向上を図るため、FDKグループのビジョンのブラッシュアップを行うとともに、様々なステークホルダーの方々の期待にお応えすべく、10年後のあるべき姿として「10年の計」と、このあるべき姿の実現に向けた最初の3年間(2020年～2022年度)の中期事業計画[R1]を策定いたしました。

「FDKグループは、スマートエナジーパートナーとして、先進技術を結集し、お客様に電気エネルギーを安心して効率的に活用いただき、持続可能な社会の実現と発展に貢献します」というビジョンにもとづき、提供する製品やサービスを通じて社会課題の解決に貢献してまいります。

FDKグループのCSRマネジメント

FDKグループでは「FDKグループCSR基本方針」を制定し、その実践にあたって重点的に取り組むCSR基本方針にもとづく7つの重点課題を定めています。これらの課題への取り組みを通じて、グローバル企業として責任ある経営を推進しています。取り組みの推進にあたっては、CSR推進委員会を設置し、FDKグループのCSR活動の基軸となる「FDK企業行動指針」および富士通グループの理念である「FUJITSU Way」の浸透、定着を図るとともに、CSR基本方針にもとづく7つの重点課題の取り組み状況の定期的なレビューを行っています。CSR基本方針にもとづく7つの重点課題である、「持続可能な社会の実現と発展に貢献する」「地球環境保全への対応」、「多様性の受容」「地球と社会に貢献する人材の育成」、「ステークホルダーとの対話と協力」、「コンプライアンスの徹底」「コーポレート・ガバナンスの強化」に関する責任ある取り組みを進め、社会課題の解決に貢献する「本業を通じたCSR」を実践し、当社のビジョンの実現に努めています。

経営の基盤となるコーポレート・ガバナンスに関しては、その充実が企業の健全性、透明性の向上と株主価値の向上につながるものと考えており、コーポレートガバナンス・コードの原則を踏まえた各施策、必要に応じた経営体制・組織の見直し等を実施しています。

また遵法を確実にし、社会的な要請に対応するため、全社横断的な組織として「安全衛生委員会」、「リスク・コンプライアンス委員会」、「環境管理委員会」、「含有化学物質管理委員会」、「輸出管理委員会」などを設置し、また、消費者課題については「製品安全化推進委員会」を設置して、適切な品質、安全性を確保するための品質保証体制の充実を図っています。さらに、よりグローバルな視点でCSRの取り組みを進めるため、国際的なCSR規範(ISO26000および富士通グループとして加入しているRBA)等への準拠活動を国内外の事業拠点、事業活動を構成する各社内プロセス、およびサプライチェーンに展開しています。

これらの取り組みを着実に進め、継続的に改善し、FDKグループのビジョンの実現を確かなものにしてゆきたいと考えています。

従業員とともにビジョンの実現に向けて

FDKグループのビジョンを実現するうえで最も大切な経営資源は人材であると認識しています。CSR基本方針にもとづく重点課題の一つに「多様性の受容」を掲げています。これまでの事業の変遷の過程で、異なる企業文化や考え方を持った人材を有しており、このような多様な人材をよりいっそう活かすことを含め、従業員のさらなる活躍とイノベーションの創出につながる取り組みを進めてまいります。また、人材に関わるCSR基本方針にもとづく重点課題として「地球と社会に貢献する人材の育成」を掲げています。階層別研修、専門能力強化、グローバルビジネスリーダーの育

FDK

成などの研修、技能習得機会を充実させるとともに、従業員満足度調査を実施し、その結果を分析・対策することで、FDKグループのビジョンの実現を牽引するグローバルに活躍できる人材の育成に注力してまいります。

バッテリーソリューションの提供を通じて、持続可能な社会の実現と発展に貢献

FDKグループではSMD対応小型全固体電池、ニッケル亜鉛電池、水素/空気二次電池などの次世代電池の開発や事業化を進めています。既存の製品やサービスに加え、今後の社会の発展を支えるIoT、モビリティ、社会インフラなどの市場にこれらの次世代電池を始めとする新たな製品を提供してまいります。

また、FDKグループでは、SDGs(国連の提唱する持続可能な開発目標)のうち特に4つの目標の達成への貢献に注力することを掲げています。SDGsへの貢献のアプローチとしても重視されているアウトサイドインの視点で、社会課題の解決につながる取り組みをバッテリーソリューションの提供を通じて進めてまいります。

本レポートを通じてFDKグループのCSR活動についてご理解を賜われればと存じます。今後のFDKグループの取り組みのため、ステークホルダーの皆様からの忌憚ない、ご評価、ご意見を賜りますようお願い申し上げます。

FDK株式会社
代表取締役社長
長野 良

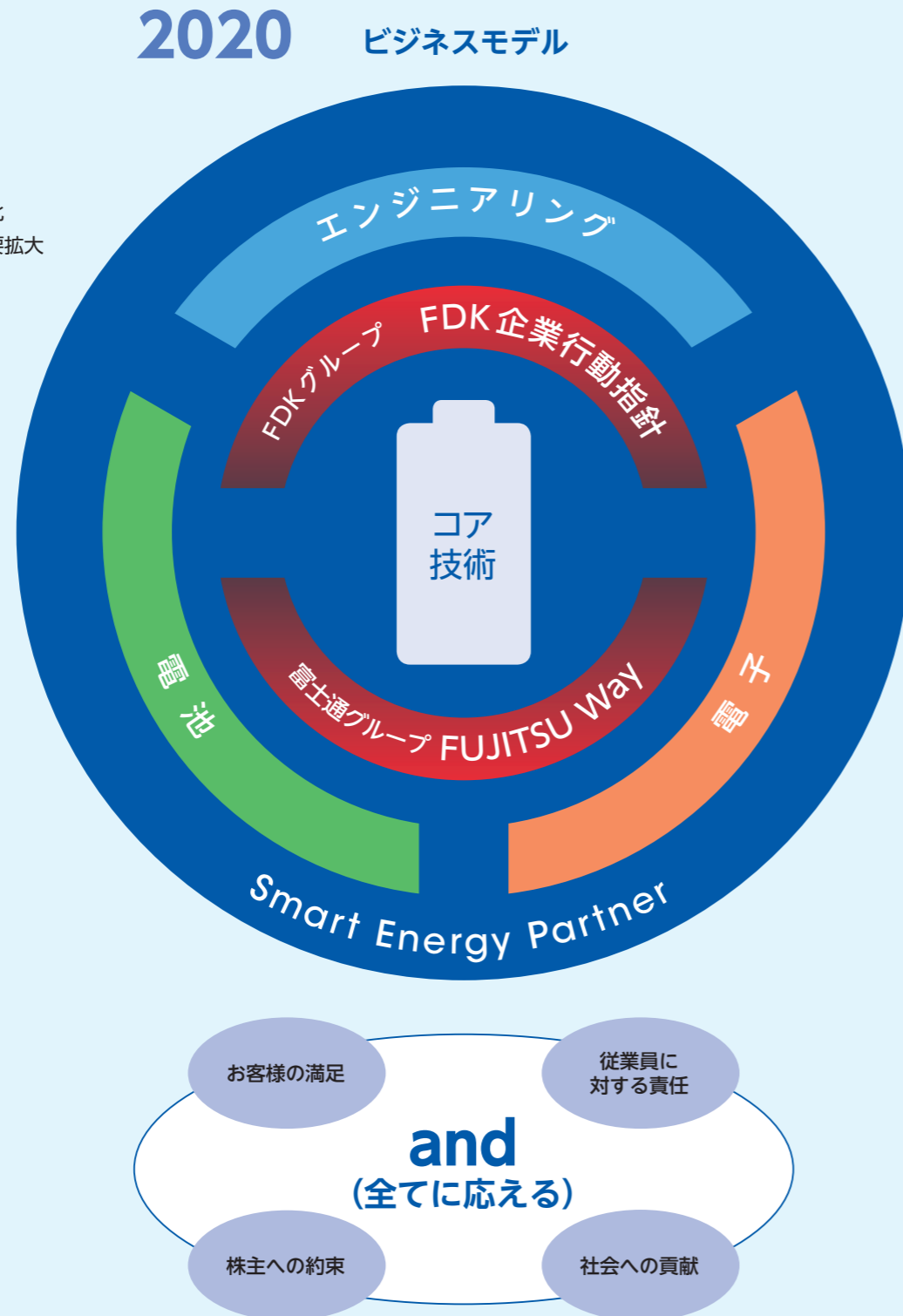
価値創造アプローチ

FDKグループは、CSR基本方針にもとづく7つの重点課題に継続して取り組むことにより、グローバル企業として責任ある経営を推進し、これまでに培ってきたコア技術をもとにした電池、蓄電システム、電子製品の開発・供給、バッテリーソリューションの提供を通じて、社会課題の解決に貢献するFDKグループの価値をすべてのステークホルダーの皆様に提供してまいります。

- CSR意識の高まり
- 製品品質・経営品質の重要性
- 資源価格の急変
- 海外生産拠点での労務費高騰
- 市場成熟と市場構造変化
- 省エネ政策推進に向けた法制化
- 車載テレマティクス機器の需要拡大



- 知的資本
- 製造資本
- 人的資本
- 財務資本
- 社会・関係資本
- 自然資本



And Game : 計画実行にあたり大切にすべき、FDKの新しい文化



SDGs (Sustainable Development Goals)

持続可能な開発目標 (SDGs) とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標 (MDGs) の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成されています。

Output

社会インフラ・ビジネスで!

- エレベータ
- 緊急対策自販機
- 複合機(コピー・ファクス)
- 蓄電システム
- マウス
- パソコン
- 非常用照明
- センサー
- 通信基地局
- データセンター
- アルカリ乾電池
- ニッケル水素電池
- リチウム電池
- 蓄電システム
- トナー
- 各種モジュール

医療・福祉の現場で!

- ベッドサイドモニタ
- 輸液ポンプ
- 電動車いす
- アルカリ乾電池
- ニッケル水素電池
- リチウム電池
- 各種モジュール

ご家庭で!

- 煙探知機
- スマートメータ
- 携帯アンテナ基地局
- LED照明
- 自動車
- コードレス電話
- 玩具
- スマートフォン充電器
- クレジットカード
- 腕時計
- リモコン
- 液晶ディスプレイ
- 美容・健康機器
- 懐中電灯
- アルカリ乾電池
- ニッケル水素電池
- リチウム電池
- 各種モジュール

FDKグループの注力するSDGs

- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
 - エネルギー消費革新
 - 蓄電、消費効率改善
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
 - 新規技術・プロセス革新
 - 省資源、省エネルギー
- 12 つくる責任 つかう責任
 - 製造業としての品質
 - リサイクルプロセス革新
 - 省資源、廃棄、排出削減
- 13 気候変動に具体的な対策を
 - CO₂削減
 - 災害対策
 - 防災、減災対策

ステークホルダー

- お取引先
- 社員
- お客様
- 株主・投資家
- 国際社会・地域社会

FDKグループのビジョンは「お客様に電気エネルギーを安心して効率的に活用いただき、持続可能な社会の実現と発展に貢献」することです。FDKグループは保有する技術により提供する電池製品、蓄電システム製品、電子製品およびそれらの生産プロセスを通じて、再生可能エネルギー活用による蓄電、消費エネルギー効率の改善、資源利用効率の向上、CO₂排出削減などの環境保全、インフラの改善、セキュリティ対策強化などに貢献しています。FDKグループの現有技術や製品により解決に貢献している社会課題、また今後の新たな事業施策や取り組みによる貢献の可能性も含めて、上記の4つをFDKグループの注力するSDGsとして決めました。

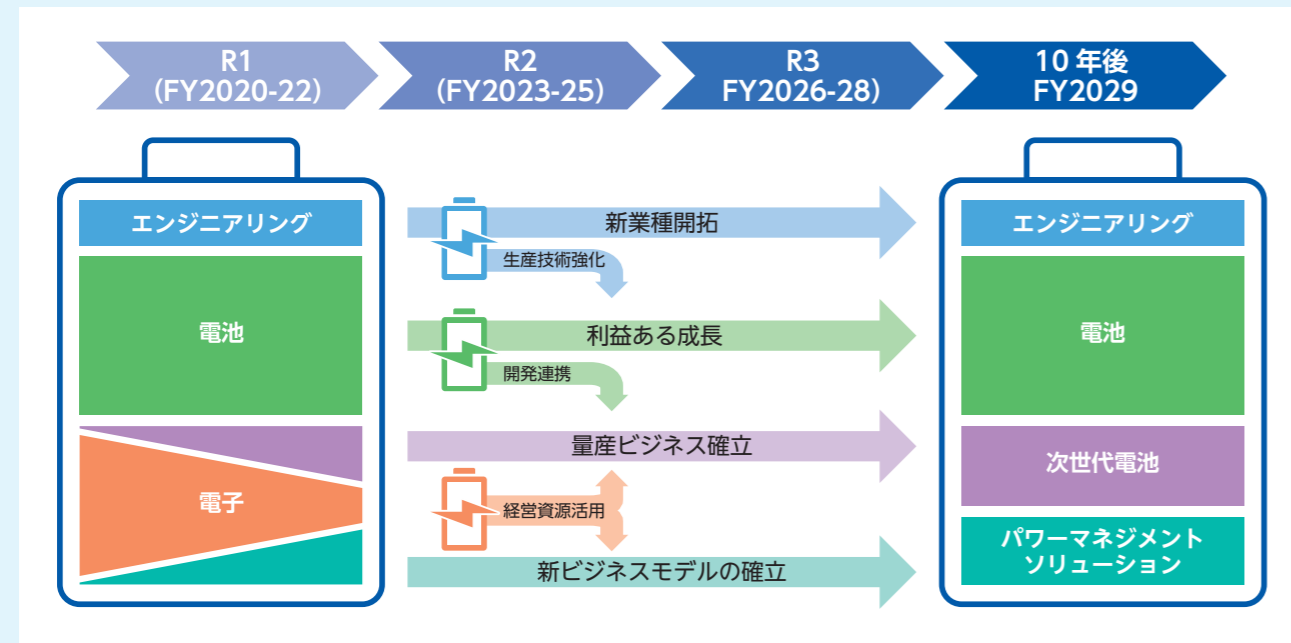
FDKは主要なステークホルダーをお客様、社員、お取引先、株主・投資家、国際社会・地域社会ととらえています。事業を通じてステークホルダーの皆様への価値提供を続け、持続可能な社会の発展に貢献します。

FDKグループ戦略Framework 「10年の計」および中期事業計画 「R1」について

FDKグループは、粉体を中心とした材料開発に立ち返った基盤事業の強化を図り電池・電子事業のシナジーを活かした製品をインダストリアル市場とコンシューマー市場への提供を通じて「エネルギー・マネジメントメーカー」としてのプレゼンスの向上を図ることを柱とした「中期経営計画1618」を策定し、展開してまいりました。

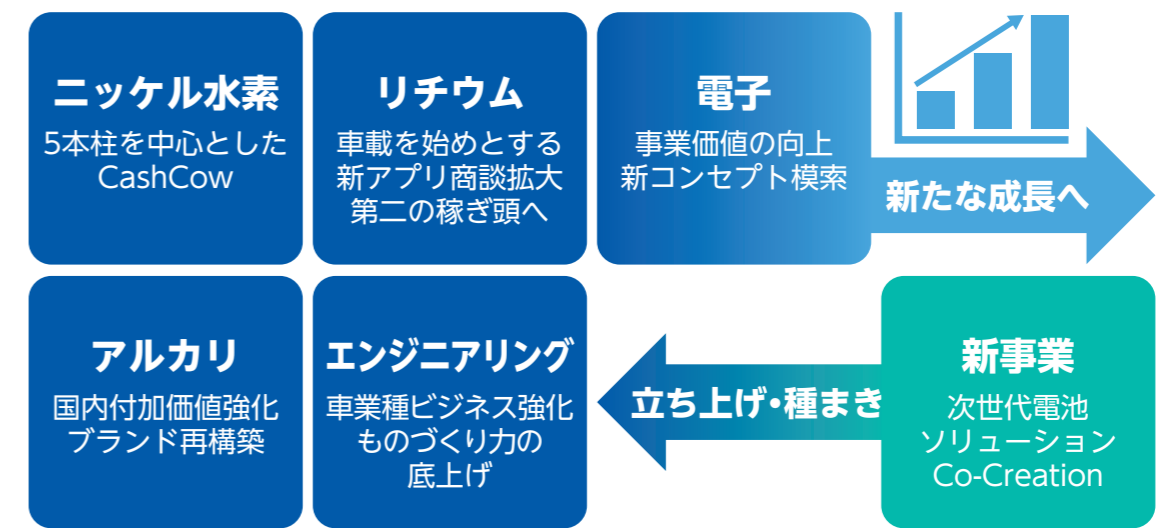
差別化技術においては、SMD対応小型全固体電池の高エネルギー密度の正極材料開発、サンプル仕様の確立、広温度・高出力・長寿命特性を持つ各種電池の開発に努めてまいりました。また、小型・高密度特性のモジュール開発にも努めてまいりましたが、市場での競争激化や市場の停滞により、当初計画に対して大幅な乖離が生じました。

かかる状況のもと、FDKグループのさらなる経営体質の強化と企業価値の向上を図るためFDKグループのビジョンのブラッシュアップを行うとともに、様々なステークホルダーの方々の期待にお応えすべく、10年後のあるべき姿として「10年の計」と、このあるべき姿実現に向けた最初の3年間の中期事業計画「R1」を策定いたしました。



R1 事業ポートフォリオ

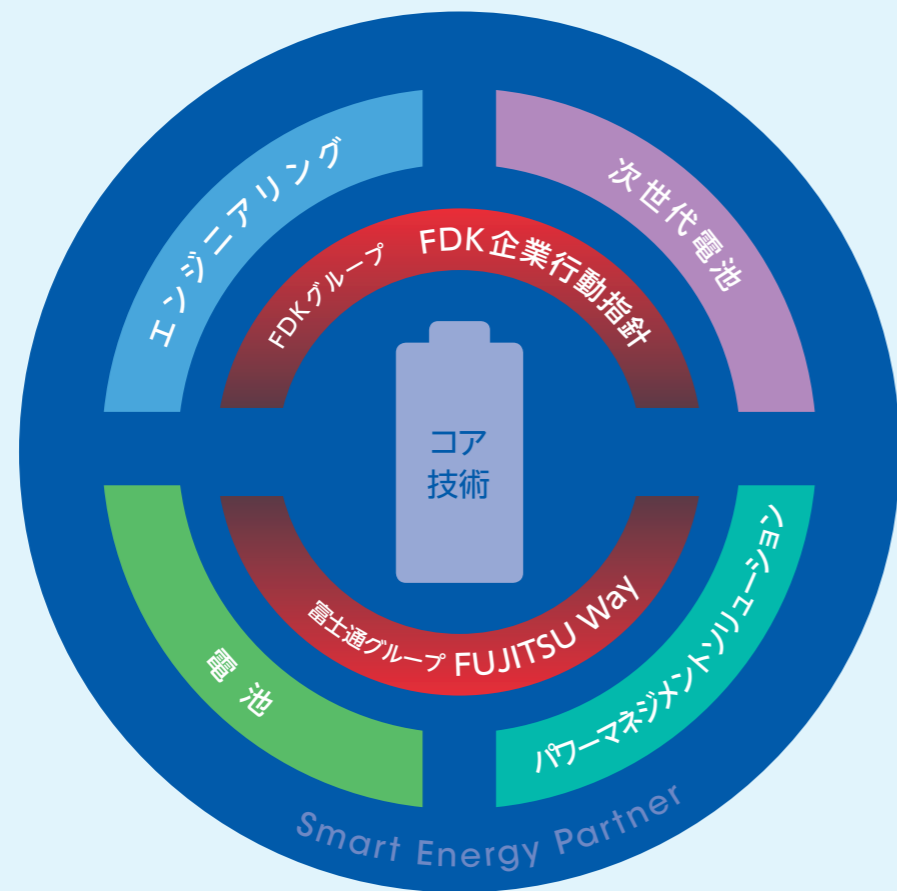
- ニッケル水素・リチウムの二本柱の安定化
- アルカリ事業の再建とブランド再構築
- ものづくり力の強化
- 電子は新たなコンセプトのもとでの再生による成長を目指す
- 新事業の立ち上げ・種まき、パートナーとのCo-Creation
- ニッケル水素電池
- アルカリ乾電池
- リチウム電池
- 次世代電池
- パワー・マネジメントソリューション
- エンジニアリング



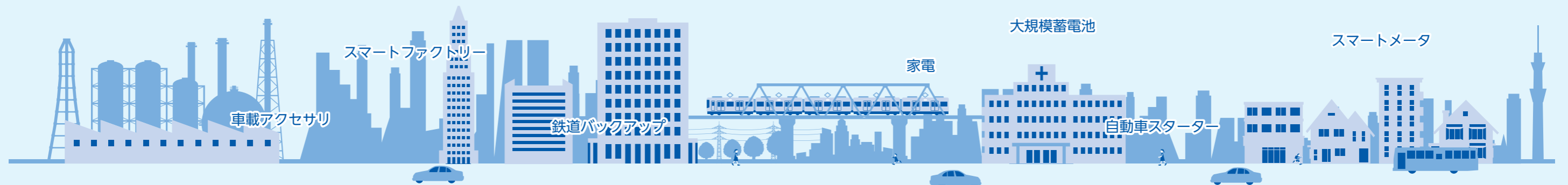
あるべき姿

- エコシステムを積極的に活用し、様々なパートナーとともに提供価値を高めお客様による電気エネルギーの様々な活用を可能にし、持続的社会的実現・発展に貢献してまいります。
- 既存オフリングの特性(信頼性・安全性・環境保全)に様々な機能・特性を追加しより広範な活用を実現し、多様化するお客様のご要望にお応えします。
- 現行ポートフォリオの技術力を活用し、FDKを再生・再編します。

2029 ビジネスモデル



- ニッケル水素電池
- アルカリ乾電池
- リチウム電池
- 次世代電池
- パワーマネジメントソリューション
- エンジニアリング



Vision & あるべき姿

電池活用シーン

クリーンかつ、安全な電気エネルギーを安定的に活用できるオフリングは、社会のあらゆる場面で活用されます。

次世代電池活用シーン

小型大容量、高信頼、高耐久等の特性を持つ、新たな電池が、様々な場面で、利用機会を創出します。

Smart Retail Store

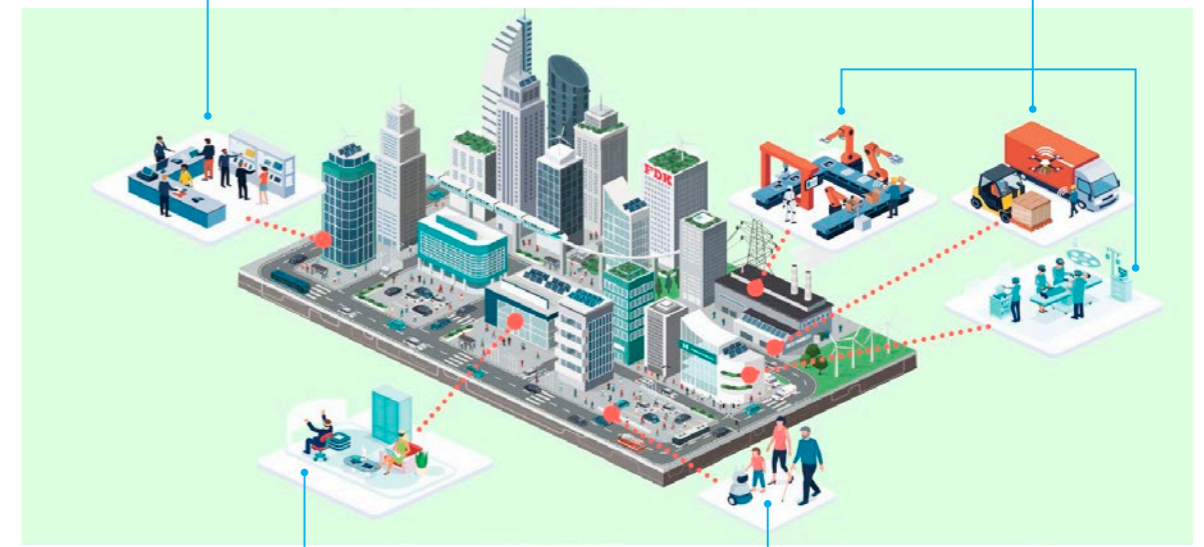
クラウドや管理センターとのデータ通信のためにIoT機器に搭載される電池

➡ 全固体(高耐久、高出力、小型)

Smart Factory & Mobility

安定稼働が求められる車両や工場設備等の駆動用に搭載される電池

➡ ニッケル亜鉛(小型、長寿命)



Smart Home & Office

屋内外で使用される高機能で多様な機器に搭載される電池

➡ 全固体(高耐久、長寿命、急速充電)
ニッケル亜鉛(高耐久、長寿命、急速充電)

Smart Infrastructure

社会インフラを支えるため、どこにでも設置可能な予備、貯蔵用電池

➡ 水素/空気(大容量、安価、高耐久)

安全・安心で環境に配慮した製品 をご提供するために



FDKは事業活動の全プロセス(バリューチェーン)において、お客様に安全・安心で環境にやさしい製品をご提供する取り組みを社内で連携のもと進めています。またその前提として、自社内での環境の取り組みやコンプライアンスを徹底して経営品質を高めることが重要であると認識しています。当社のお取引先との連携を含めた活動を推進し、お客様にとって価値のある製品とサービスの提供に取り組んでまいります。

方針

方針実現に向けた取り組み

関連するSDGs項目

開発・技術	調達	製造	販売	物流
 <p>社会課題解決やお客様ニーズへの対応に貢献する価値ある製品の開発・改良、信頼性向上に努めています。保有する人材、知見、技術を活用し、最大限の成果を上げるため各事業部の技術開発部門との連携を強化します。</p>	 <p>国内各事業部、海外生産拠点の購買部門や富士通グループとも連携し、グローバルで最適な部材を調達する体制を構築しています。お取引先様との十分なコミュニケーションを図り、パートナーとしてともに繁栄する持続可能な調達に努めます。</p>	 <p>最適な製造設備、製造技術を取り入れ、定められた性能・品質の遵守を徹底し、信頼性の高い製品の製造に取り組んでいます。これまで培ってきた電池、電子製品やその融合製品の製造技術をさらに進化させ、お客様や社会のニーズに対応して開発した製品の製造に取り組んでいます。</p>	 <p>お客様のお困りごとやニーズをその背景も含めて的確に把握し適切なソリューションを提案できるよう、お客様と十分なコミュニケーションを行い、FDKの強みを顧客のValueにつなげる提案に努めています。ご要望を的確に開発部門へフィードバックし、技術サポート部門とお客様に出向きニーズの深掘りを行っています。</p>	 <p>電気化学製品であり重量物でもある電池や精密部品である電子製品を、その性能や価値を損なうことなく、確実にお届けするための物流品質の確保を常に心掛けています。気象変動などによる災害発生時には、お客様の安全・安心の確保を支援する電池製品などを迅速にお届けできるよう取り組んでいます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 社会課題の解決やお客様のニーズに対応するための製品開発を行います。 ● 各事業部の技術開発部門との連携を強化します。 ● 学会や大学を含む外部研究機関との連携による新規製品開発を行います。 ● 含有化学物質管理および知的財産の管理などのコンプライアンスの強化を図ります。 ● 研究開発段階からISOに準拠したプロセスを導入し、より高いレベルの製品品質を実現します。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 品質、価格対応、納期遵守、技術力、環境保全、経営状況を基準としたお取引先の選定による、公平、公正な責任ある調達活動を行います。 ● ISOや行動指針および下請法などの関係法令を遵守した調達活動を行います。 ● お取引先様へはビジネスレビューや定期監査の実施、当社CSR指針の展開と推進、グリーン調達の実践、事業継続マネジメント(BCM: Business Continuity Management)の取り組みなどを連携して進めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ISOに沿った製造プロセスを実践します。 ● TPM(Total Productive Maintenance)活動などに加え、技能資格制度や作業のマニュアル化によるノウハウの継承、BCM、ラインの自動化およびIoTに取り組んでいます。 ● 各工場ではISOや全社環境組織の活動に沿い、環境保全の取り組みを進めています。また安全衛生活動や5S活動を進め、安全で快適な環境でのモノづくりを進めています。 ● 経営トップによる定期的な現場確認により、マネジメントと現場が密接に課題や取り組みを共有し、改善や目標達成に努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市場のトレンドや潜在ニーズの把握、展示会の出展やイベントの企画により、お客様の生の声に幅広く触れるなど、価値ある製品やサービスの提供につながる取り組みを行っています。 ● お客様相談窓口を設け、ご意見やご指摘に真摯に対応するとともに、お客様のお困りごとを解決する製品や、より安全・安心、環境に配慮した製品の開発につなげられるよう努めています。またCS(お客様満足度)調査も継続的に行い、よりお客様のご満足を得られる活動につなげるようにしています。 ● 情報管理、ビジネス倫理、コンプライアンスを徹底し、お客様に安心してお取引いただけるよう努めています。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 災害発生時の物流網の代替ルートや輸送手段など物流面でのBCPを立てるなど、お客様に製品を迅速、確実にお届けできるよう取り組んでいます。 ● 最適で信頼のおける物流会社様の公平な選定に努め、相互信頼関係を築いています。 ● 法令遵守面では、各国の規制への的確な対応、適正な輸出入管理や通関業務を確実にするための教育を実施しています。 ● 鉄道輸送、輸送効率の向上、廃棄物削減など環境負荷低減の取り組みを進めるとともに、作業者の環境や安全面での対策に優先的に取り組み、持続可能な責任ある物流の実現に取り組んでいます。
				

バリューチェーンを支える基盤

コーポレート・ガバナンス

コンプライアンス

リスクマネジメント

人材育成

環境配慮

CSR マネジメント

FDKグループにとってのCSR活動は、「FDK企業行動指針」と富士通グループの一員としての「FUJITSU Way」の実践を通じて、様々な社会課題の解決に取り組み、地球と社会の持続可能な発展に貢献していくことです。

FDKグループのCSR基本方針は、FDKグループで働くすべての人が積極的に実践すべき内容を示した「FDK企業行動指針」および富士通グループの一員としてのグループ理念である「FUJITSU Way」を実践することです。

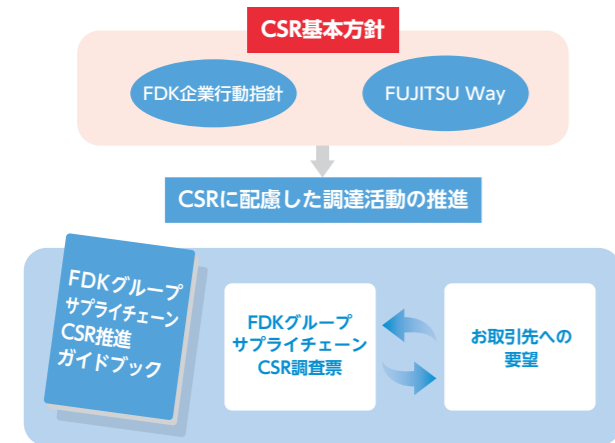
FDKグループは、Smart Energy Partnerとして、先進技術を結集し、お客様に電気エネルギーを安心して効率的に活用いただき、持続可能な社会の実現と発展に貢献しますというビジョンのもと、すべての事業活動において、マルチステークホルダーの期待と要請を踏まえ「FDK企業行動指針」および「FUJITSU Way」を実践することにより、地球と社会の持続可能な発展に貢献してまいります。

CSRの実践にあたっては、7つの課題に重点的に取り組みます。これらの課題への対応を通じて、グローバル企業として責任ある経営を推進します。

CSRに配慮した調達活動

FDKグループは、「FDKグループCSR基本方針」、「FDK企業行動指針」および「FUJITSU Way」にもとづき、お取引先とともに、CSRに配慮した調達活動を推進していくための指針として「FDKグループ サプライチェーンCSR推進ガイドブック」を作成しています。

本指針を遵守した調達活動を行うとともに、サプライチェーンを構成するお取引先にも同様に本指針の遵守をお願いしています。



CSR活動推進体制

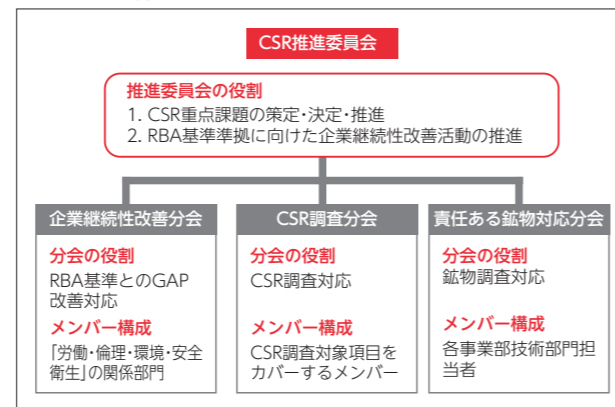
FDKグループのCSR活動の基軸となる「FDK企業行動指針」および「FUJITSU Way」の浸透、定着を推進するため、FDK

では「CSR推進委員会」を設置しています。

CSR推進委員会は、FDKグループの全社横断的なCSRマネジメント推進のため取締役執行役員（コーポレート本部長）を委員長とし、CSR基本方針にもとづく7つの重点課題の取り組みの状況の確認、CSRに関連した情報や取り組みの確認などを定期的に行っています。また、FDKグループのCSR基本方針、CSR基本方針にもとづく重点課題、施策、活動実績などは弊社HPにて公開しております。

CSR推進委員会には、国際的なCSR規範であるRBA（責任ある企業同盟：Responsible Business Alliance）への準拠推進活動やお客様からのCSRに関する調査・要請への対応、鉱物調達の適切なマネジメントを目的とした3つの分会を設置しています。

CSR推進体制図



責任ある鉱物調達の方針

FDKグループは、「富士通グループ責任ある鉱物調達対応方針」に従い、鉱物問題にかかる企業の責任を重要なCSR課題の一つとしてとらえ、紛争を助長しているあるいは強制労働や人権侵害と関連する高リスク鉱物としてタンタル、錫、金、タングステンおよびコバルトを特定し、問題のある精錬所等の業者をサプライチェーンから排除していくことを方針としています。

FDKグループは、サプライチェーンの透明性の確保と責任ある鉱物調達に取り組んでまいります

* その採掘や取引が武装集団の資金源となり紛争を助長している、あるいは、人権侵害、労働問題などと密接に関連している鉱物。

2010年7月に米国で成立した「金融規制改革法」においては、コンゴ民主共和国および隣接国において産出される鉱物のうち、タンタル、錫、金、タングステン、その他国務省が判断する鉱物を紛争鉱物として、米国上場企業に対し、紛争鉱物を使用する場合の米国証券取引委員会（SEC）への報告義務などが定められた。なお、FDKでは2019年度より、従来の紛争鉱物にコバルトを加えた高リスク鉱物に対する「責任ある鉱物調達」に取り組んでいます。

CSR基本方針にもとづく7つの重点課題の位置づけ

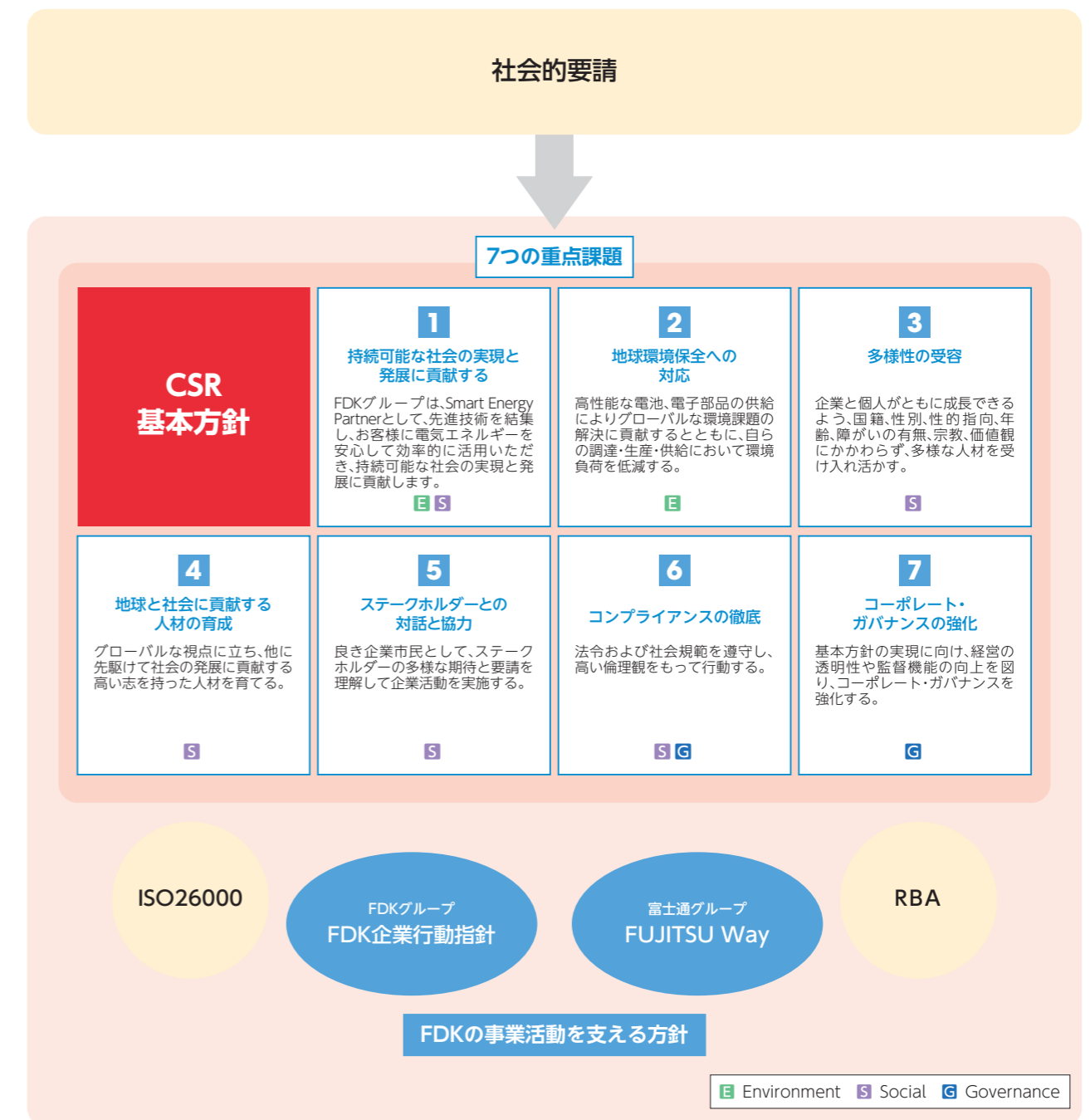
FDKグループは、CSR基本方針にもとづく7つの重点課題を設定しています。

これらの重点課題は、社会的な要請への対応や責任ある経営を推進するために、重要度、優先度を検討して設定しています。

7つの重点課題の実践を通じて、すべてのステークホルダー

に価値を提供し、FDKグループのビジョンの実現に取り組んでいます。

CSRマネジメント活動として、ISO26000の中核課題やRBAの5つのセクションにおける規範への準拠活動を進め、経営品質の向上を図っています。



7つの重点課題

FDKグループは、CSR基本方針にもとづく7つの重点課題を制定し、CSR活動を推進しています。この重点課題は、FDKグループの事業を通じての社会貢献と、ISO26000における基本原則、中核課題やRBA等において求められる事項に積極的に取り組み、グローバル企業として責任ある経営を推進することを目的とし、次のとおり取り組んでいます。

重点課題	あるべき姿	重点施策	2019年度の取り組み		ISO 26000	参照
			目標	実績		
1 持続可能な社会の実現と発展に貢献する。 FDKグループは、Smart Energy Partnerとして、先進技術を結集し、お客様に電気エネルギーを安心して効率的に活用いただき、持続可能な社会の実現と発展に貢献します。	電池/エンジニアリング、次世代電池、パワーマネジメントソリューションの分野でクリーンかつ安全な電気エネルギーを安定的に活用できるオフアライニングをお客様にお届けする。	エコシステムを積極的に活用し、様々なパートナーとともに提供価値を高め、お客様による電気エネルギーの様々な活用を可能にする製品およびソリューションを開発し提供する。	<製品> ●市場ニーズに応える価値ある製品を成長が見込まれるインダストリアル市場に向けて継続的に投入 ●電池・電子の保有技術を活用し、市場ニーズに応える製品を市場投入 <取り組み> ●市場リサーチの強化を進め、お客様や市場の動向を迅速に探知し、ニーズに即した技術開発提案の実現	●家電市場向けに、安全性や保存性能を改善したより安全・安心な電池製品やコストダウンモデル、環境に配慮したパッケージを使用した電池製品の開発、供給を行いました。 インフラ市場向けには、車載、防災/セキュリティ、スマートメータ、バックアップ電源用途などに、お客様の要望や環境課題に対応した電池製品の開発、供給を行いました。 ●電子製品では、お客様の消費電力の低減や小型軽量化に貢献する製品の開発を行いました。 ●SMD対応小型全固体電池の開発とサンプル出荷し、お客様や社会の課題解決に貢献する次世代電池の量産化に向けた取り組みを推進しました。また、社会インフラでの活躍が将来的に期待される水素/空気二次電池の開発に向けた取り組みを開始しました。		P21~P24
2 地球環境保全への対応 高性能な電池、電子製品の供給によりグローバルな環境課題の解決に貢献するとともに、自らの調達・生産・供給において環境負荷を低減する。	環境問題を常に意識し、グリーンエコノミー時代の実現に向けての製品提供により社会全体の環境負荷・環境リスク低減に積極的に取り組んでいる。 ●地球温暖化防止のため工場や事務所での省エネルギー対策や物流改善の推進などに取り組む。 ●3R(リデュース、リユース、リサイクル)活動により環境負荷を低減する。	<お客様の環境負荷低減> ライフサイクルを考慮した環境配慮製品開発の推進(省エネルギー製品、省資源効率製品) <自らの環境負荷低減> ●エネルギー消費CO ₂ 排出量の削減 ●廃棄物発生量の削減 ●化学物質発生量の削減	<環境配慮製品の開発> ●エネルギー効率改善に寄与する製品 各拠点4件/年以上開発する ●資源効率改善に寄与する製品 各拠点3件/年以上開発する <エネルギー消費CO ₂ 排出量削減> ●エネルギー消費CO ₂ 排出量を国内FDKグループ全体で35,259t以下に抑える ●エネルギー消費原単位を各拠点年平均1%改善する <廃棄物発生量の削減> ●廃棄物発生量原単位を各拠点2015年度比4%改善する <化学物質排出量の削減> ●PRTR法対象物質排出量原単位を各拠点2015年度比4%改善する	●エネルギー効率改善に寄与する製品開発目標は、目標達成しました。 ●資源効率改善に寄与する製品開発目標は、目標未達となりました。 ●CO ₂ 排出量削減目標は、目標達成しました。 ●エネルギー消費原単位を各拠点で年平均1%改善する目標は目標達成しました。 ●廃棄物発生量の削減目標は、目標達成しました。 ●化学物質排出量の削減目標は、目標達成しました。		P31~P34
3 多様性の受容 企業と個人がともに成長できるよう、国籍、性別、性的指向、年齢、障がいの有無、宗教、価値観にかかわらず、多様な人材を受け入れ活かす。	FDKグループで働くすべての人が、あらゆる差別*を排除し、多様な人材を受け入れ、それらの行動を実践している。 *国籍、人種、性別、宗教、信条、社会的身分、出身地、障がい、性的指向などによる不当な差別やセクシャルハラスメント、精神的もしくは肉体的な暴力などによる人権侵害	●すべての人が働きやすい職場環境の整備 ●人事・処遇制度の改善 ●研修、セミナーによる啓発活動の充実	●働き方改革への意識醸成 ●フレックス、時差勤務、テレワーク、在宅勤務などの拡充と導入検討 ●介護社員、障がい者、LGBTの理解促進に向けた啓蒙活動 ●障がい者、LGBTに対応した働きやすい職場環境の検討 ●幹部社員(職場マネジメント)セミナーの継続開催 ●主任社員へのセミナー開催 ●シニア社員向けライブアランセミナーの開催 ●次世代リーダー育成研修の開催 ●男性の育児休業取得率アップに向けた推進 ●行動計画の実行(女性の意識改革と監督職の増員)	●バリアフリー化に向けて支障となる物理的な障壁の洗い出しを行いました。 ●2019年7月1日付けでフレックス勤務の対象者を拡大しました。 ●2019年10月より12月まで本社にてテレワーク勤務のトライアルを実施しました。トライアル終了後に対象者へアンケートを行い、課題の抽出を実施しました。 ●マネジメント能力の向上を目的として、従来の座学による研修に加え、ディスカッション形式の研修を追加しました。 ●同性パートナーへの社内制度適用に向けて、人権週間の取り組みの中でLGBTに関する研修、リーフレットの配布を実施しました。		P27~P28
4 地球と社会に貢献する人材の育成 グローバルな視点に立ち、他に先駆けて社会の発展に貢献する高い志を持った人材を育てる。	長期的視点に立ち、ビジネスを通じてグローバルに活躍できる人材を育成している。	●ビジネスを通じて地域・社会に貢献する人材の育成システム充実 ●地域・社会とのつながりによるコミュニケーション力の育成	<FDKグループ人材育成計画(3年目)の実行> ●既存研修のブラッシュアップ ●教育計画の可視化および共有化 ●研修内容の見直し <次世代ビジネスリーダー・プロフェッショナル人材の育成> ●リーダーシップ研修を開催 <グローバル採用に向けた企画と施策の検討> <グローバル人材の育成を目的としたセミナーの開催> ●異文化理解を深める研修を開催	●事前学習による理解度アップを目的に基礎教育資料の事前配布を行いました。 ●異文化理解研修は、受講者対象拡大、カリキュラムのブラッシュアップ、研修時間の拡大を行い10月に実施しました。		P29~P30
5 ステークホルダーとの対話と協力 良き企業市民として、ステークホルダーの多様な期待と要請を理解して企業活動を実施する。	公開すべき情報を的確に開示し、ステークホルダーとの対話を行い、事業活動への反映を通じて社会に貢献する企業活動を継続的にしている。	<ステークホルダーとの対話機会の充実と要請事項への的確な対応> ●CSR報告書の発行 ●お客様:情報提供要請に対する適切な情報開示 ●株主、投資家:株主総会、IRミーティング、ホームページ上の情報開示、経営方針・決算説明会など対話の実行に向けた検討 ●取引先:双方向コミュニケーションの充実 ●従業員:労使対話、満足度調査、経営トップとの対話 ●地域社会:地域住民への社会貢献活動(地域住民交流会、清掃活動、工場見学、乾電池教室など)	●CSR報告書の発行 ●お客様:情報提供要請に対する適切な情報開示 ●株主、投資家:株主総会、IRミーティング、ホームページ上の情報開示、経営方針・決算説明会など対話の実行に向けた検討継続 ●取引先:双方向コミュニケーションの充実 ●従業員:労使対話、満足度調査、経営トップとの対話、リスクマネジメント推進 ●地域社会:地域住民などへの社会貢献活動	●CSRレポート(2019)を発行しました。 ●適時開示を継続的に実施しました。 ●顧客からの問い合わせへの対応件数(会社概要等):52件 ●株主・投資家からの問い合わせへの対応件数:214件 ●顧客からのCSR/紛争監視調査への対応件数:160件 ●リスクに関する外部からの問い合わせへの対応件数:11件 ●[FDKグループサプライチェーンCSR調査]を主要取引先に展開、フィードバックを行いました。 ●労使連絡会は毎月開催しました。人事ホットラインへの相談件数:8件 ●各事業所にて地域社会貢献活動を継続して実施しました。		P25~P26
6 コンプライアンスの徹底 法令および社会規範を遵守し、高い倫理観をもって行動する。	経営者および全従業員が常に法令および社会的規範を遵守した行動をし、また新規・改正情報も迅速に認識、対応できている。	●企業継続性改善活動拡充(評価・改善、教育など) ●コンプライアンス関連規定の整備 ●教育プログラムの策定、実施(行動指針、企業倫理面の海外拠点展開を含む) ●モニタリング強化 ●新規、改正法令情報の的確な取得と反映	●コンプライアンス関連規定の整備 ●教育プログラムの策定、実施(行動指針、企業倫理面の海外拠点展開を含む) ●モニタリング強化 ●新規、改正法令情報の的確な取得と反映	●コンプライアンス関連規定の整備 全社規定の制定/改廃を行いました。実績(制定2件、改定12件) ●教育プログラムを策定し、計画的に実施しました。 ●コンプライアンス教育を実施しました。 ●e-Learning ●階層別研修での教育実施 ●輸出管理教育の継続実施 ●モニタリング強化 ●内部通報受付:5件 ●新規、改正法令情報の的確な取得と反映 ●法令改正情報などをまとめた社内向け法務ニュースを発行しました。 ●輸出管理関係情報の社内イントラに掲載しました。		P17~P20
7 コーポレート・ガバナンスの強化 基本方針の実現に向け、経営の透明性や監督機能の向上を図り、コーポレート・ガバナンスを強化する。	経営者はコーポレート・ガバナンスの本質をよく理解し、必要に応じた経営体制の見直し、組織の整備などを実施している。	●取締役会の監督機能が十分にあり、監督と業務執行が分離され、的確な意思決定が行われる機関設計の検討 ●取締役会の実効性の維持、向上を目的とした取締役会の評価(自己評価と外部機関による検証、継続的改善)およびトレーニングの実施	●監査等委員会による社外取締役との円滑な情報共有と高い監査・監督の継続 ●取締役による取締役会の自己評価とトレーニングの継続 ●執行役員による上記トレーニングへの参加	●会計監査人から連結財務諸表監査に対するレビュー結果を共有しました。 ●監査部からの監査計画、結果を報告しました。 ●2020年3月取締役会の自己評価および取締役会のトレーニングを実施しました。 テーマ:サクセッションマネジメントと会社役員の義務と責任(執行役員も参加しました)		P17~P20

マネジメント体制



社会的要請

- 経営の透明性の確保
- 企業倫理の継続的向上
- 監督機能の強化

FDKのアプローチ

- コーポレート・ガバナンスの強化
- コンプライアンスの徹底
- 内部統制システムの継続運用

マネジメント体制のハイライト

社外取締役の人数 (取締役総数7名)	全従業員対象の コンプライアンス教育 受講者数	社内イントラネットでの コンプライアンス関連 情報発信件数	労働災害発生件数
3名	3,425名	25件	5件
労働災害度数率	労働災害強度率	顕在化リスクの マネジメントレビュー件数	内部通報件数
0.52	0.00	11件	5件

マネジメント体制を支える取り組み

コーポレート・ガバナンスの強化

基本的な考え方

FDKグループは、コーポレート・ガバナンスを充実させることが、企業の健全性、透明性の向上と株主価値の向上につながるものと考えており、金融商品取引所が定めるコーポレート・ガバナンスコードの原則を踏まえた施策、および必要に応じて経営体制の見直し、組織の変更等の施策を実施しています。また、経営内容の迅速な情報開示に努めると同時に、インターネットを通じて財務関連情報の提供を行っています。FDKは、経営の監督機能と業務執行体制を分離した事業運営を図る目的で執行役員制度を導入しており、その体制は取締役兼執行役員2名と執行役員5名で構成しています。なお、監査等委員を含む取締役7名のうち、3名が会社法第2条第15項に定める社外取締役です。

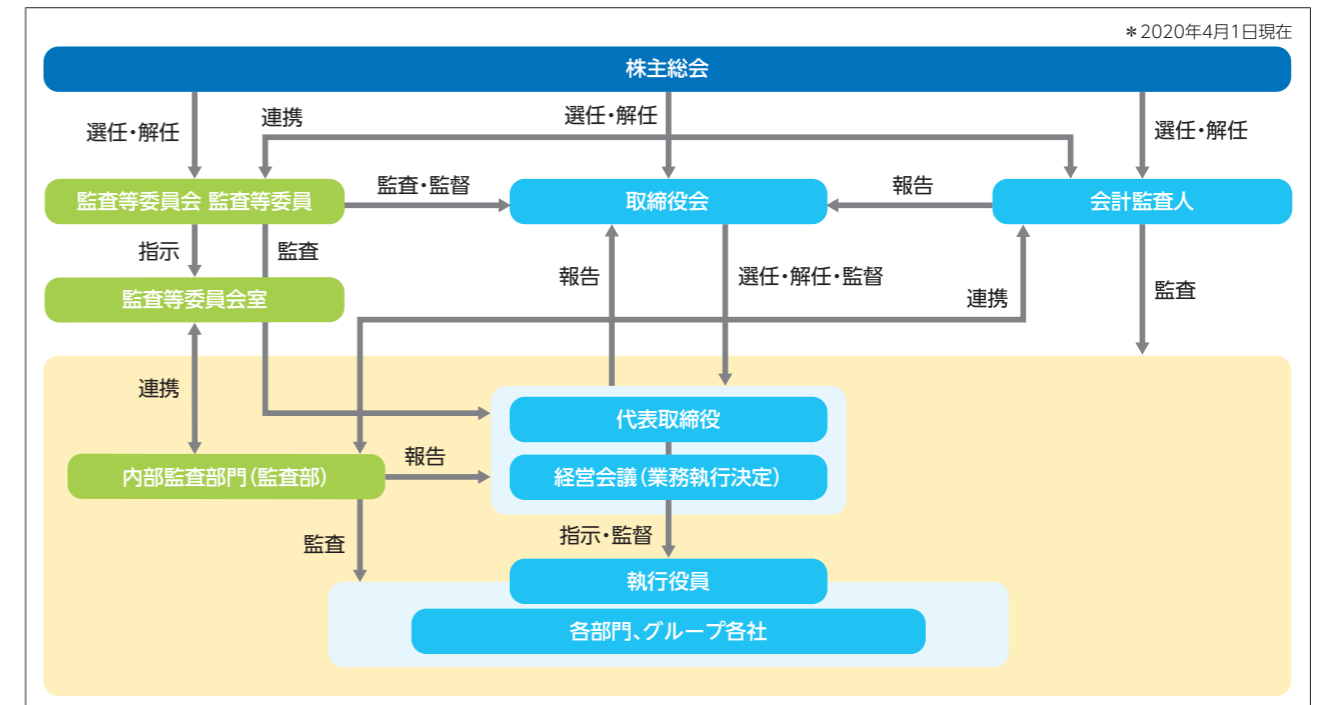
取締役会

FDKの取締役会は、取締役(監査等委員を除く)4名と監査等委員である取締役3名で構成しています。取締役会は原則毎月1回開催し、経営に関する重要事項を決定するとともに、業績の進捗状況についても議論し対策を検討しています。

監査等委員会

FDKの監査等委員会は、社外取締役2名を含む取締役3名の監査委員で構成し、原則毎月1回および必要に応じて随時に開催し、経営の適法性・妥当性の監督・監査を行っています。また、各監査等委員は、取締役会に出席し、経営全般および個別案件に関する客観的で公正な意見陳述を行うとともに監査等委員会で立案した監査方針に従って、取締役の業務執行の適法性・妥当性を監査しています。なお、監査等委員である社外取締役との円滑な情報共有を行うことにより、質の高い監査・監督を行い、ガバナンスの強化に貢献することを目的として監査等委員会室を設置しています。

●コーポレート・ガバナンス体制図



内部統制システムの構築

基本的な考え方

FDKグループは、企業の社会的責任を果たすためには、コーポレート・ガバナンスの充実が必要と認識しており、「内部統制システム構築の基本方針」を取締役に決定し、お客様、取引先、株主、従業員、地域社会等のステークホルダーとの健全で良好な関係を維持しつつ、業務の適正、財務報告の信頼性を確保し、関連する法規、定款を遵守する経営を行っています。また、FDKグループの企業価値の向上を図るためには、経営の効率性を追求するとともに、事業活動より生じるリスクをコントロールすることが必要であり、以下の諸施策の継続的な実施を推進しています。

業務の適正を確保するための体制について

以下の諸施策の継続的な実施を推進しています。

1. 取締役および従業員の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制
2. 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理にする体制

コンプライアンスの徹底

基本的な考え方

FDKグループは、従業員一人ひとりの行動の基準となる

3. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
4. 当社および子会社の取締役の執行が効率的に行われることを確保するための体制
5. 当社および子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
6. 監査等委員の監査の適正性を確保するための体制

①取締役トレーニング

専門知識の更新および専門知識外の習得を目的として、取締役および執行役員を対象としたトレーニングを実施し、取締役の知識・知見の向上に継続して取り組んでいます。

②取締役会実効性評価

アンケートによる評価手法および第三者機関によるアンケートの分析結果にもとづいたディスカッションを実施し、取締役会における課題の討議を行い、取締役会の監督機能強化に継続して取り組んでいます。

「FDK企業行動指針」を定めています。この行動指針において「法令および社会規範を遵守し、高い倫理観をもって行動す

る」という方針を明確にし、消費者やお取引先様の信頼を得られるように努めています。この行動指針をイントラネットに掲載するとともに、外部向けFDKHPにも掲載しております。

教育について

FDKグループでは、新入社員教育、中堅社員研修、新任課長研修などの階層別研修において、社内規則や外為法、製造物責任法、独占禁止法、個人情報保護法などの業務に関係の深い法令について説明を行い、一人ひとりの理解促進を図っています。上記の他にも全従業員を対象とした様々なコンプライアンス教育(e-learningを含む)を継続して実施しています。輸出管理および下請け取引につきましては、各事業所において毎年講習会を実施しております。また、イントラネットを利用して、法令の改定情報や違反事例の紹介周知など、コンプライアンスに関する様々な情報を従業員に提供し、法令遵守に関する意識の向上に努めています。

事業運営に関わる法令の遵守

FDKグループの事業運営にあたっては、遵守しなければならない様々な法令などがあります。これらに加えて、文化や慣習を理解し社会動向などにも的確に対応することにより、倫理的な面からもコンプライアンスの徹底を図っています。社内には「安全衛生委員会」「環境管理委員会」「含有化学物質管理委員会」「輸出管理委員会」「製品安全化推進委員会」などの専門組織を設置し、法令などを遵守した事業運営に取り組んでいます。

安全衛生活動

▶ 1. FDKグループ安全衛生方針について

【基本理念】

私たちは、一人ひとりの「生命」と「心」を大切に、人間尊重を基本理念とする。FDKに働くすべての人の安全と健康の確保は安全衛生の基盤であり、安全第一に徹し、安全・快適な職場づくり、心と身体の健康づくりに積極的に取り組み「労働災害ゼロ」「ゼロ疾病」を目指します。

【基本方針】

労働災害はあってはならないを基本に、従業員の安全および健康の増進と確保を目指し、災害ゼロの達成に向け、自主的な安全衛生活動を体系的かつ継続的に展開し、全員参加による安全で快適な職場づくりを実践する。また、従業員の心の健康への対策は、従業員本人や家族の幸せにとどまらず、企業への信頼や円滑な事業運営といった観点からも重要であり、メンタルヘルスの取り組みを強化する。

▶ 2. 労働安全衛生推進体制

FDKグループでは、各事業所における「事業所安全衛生委員会」を統括する機能として、社長および労働組合の委員長などで構成する「中央安全衛生委員会」を四半期ごとに開催し、各

事業所での活動内容の情報共有を図ると同時に、全社的な安全衛生活動内容を策定しています。

各事業所では毎月「事業所安全衛生委員会」を労使合同で開催し、安全衛生活動計画に沿った活動を行っています。

なお、一部の事業所では、労働安全マネジメントシステムである「OHSAS18001」、「ISO45001」を取得しており、マネジメントシステムを活用することにより、より高いレベルの労働安全衛生体制の実現に取り組んでいます。

▶ 3. 労働災害発生状況

2019年度は、国内事業所で5件、海外事業所で2件の計7件の労働災害が発生しました。(交通災害除く)

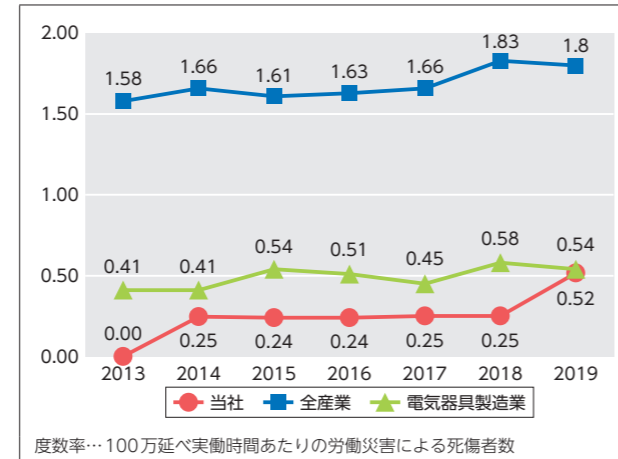
国内事業所の労働災害発生率(度率)は0.52、強度率は0.00となりました。

* 度率: (死傷者数 / 延べ労働時間数 * 1,000,000)

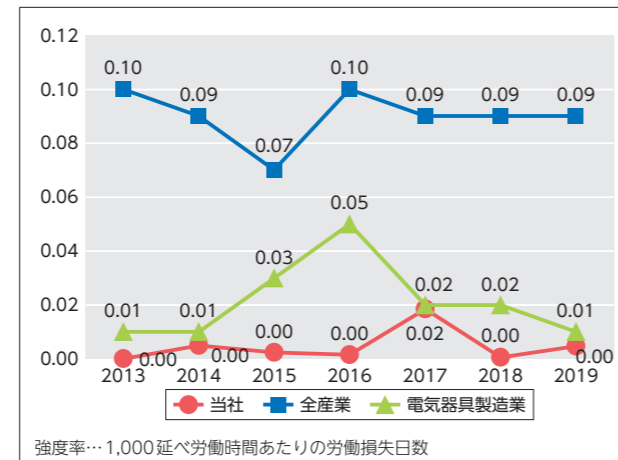
強度率: (延べ損失日数 / 延べ労働時間 * 1,000)

労働災害発生速報をイントラに掲示し、情報の水平展開を行い、類似労働災害の発生防止に継続して取り組んでいます。

● 度率率推移



● 強度率率推移



▶ 4. 安全衛生教育

FDKグループ全体で新入社員向け安全衛生教育および階層別安全衛生教育を実施し、安全衛生意識の浸透に継続して努めています。

リスクマネジメントの取り組み

▶ 1. リスクマネジメントの基本的な考え方

FDKグループは、グローバルな事業活動を通じて、企業価値を持続的に向上し、お客様や地域社会を始めとするすべてのステークホルダーの皆様へ貢献することを目指しています。この目的を達成するため、事業活動により生じるリスクを適切に把握し、対応することを重要な課題と位置づけ、FDK企業行動指針およびFUJITSU Wayにもとづく当社グループ全体のリスクマネジメント体制を構築し、その実践と継続的改善を行います。当社では取締役会において「内部統制システム構築の基本方針」を定めており、どのような体制・規律をもって経営の効率性の追求と事業活動により生じるリスクのコントロールをし、経営に臨むかについて、その基本方針を株主の皆様へ開示しております。

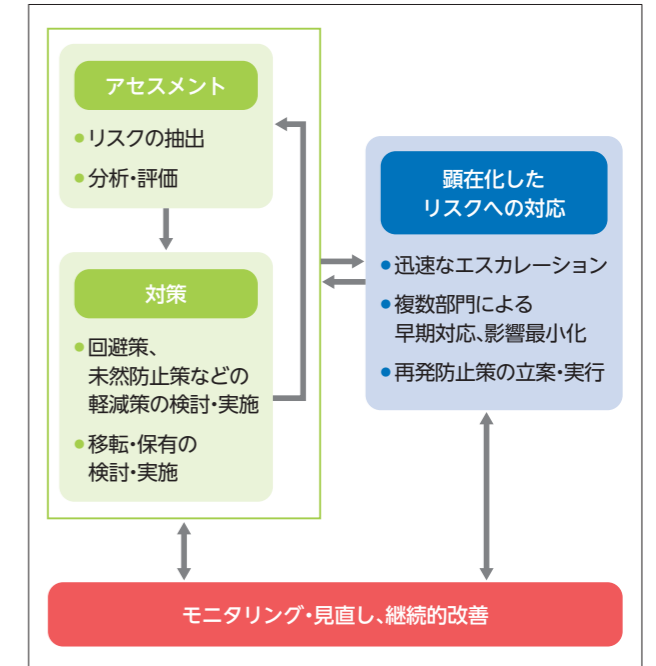
▶ 2. リスクマネジメントのプロセス

各部門において、事業活動に伴う潜在リスクを抽出、評価、検証する。各リスクの対応優先度を明確化し、リスクコントロール(リスクの回避・軽減・移転・保有)の方針を決定する。決定された方針に従って、各部門にて未然防止策を検討し、実施する。リスクが顕在化した場合には、各部門はエスカレーションを実施する。また、各関連部門、リスク・コンプライアンス委員会事務局などと連携し、適切な対応をとることによって、問題の早期解決、影響の最小化を図るとともに、原因究明に努め、再発防止策を立案し、実行する。これらの各プロセスについても、実行状況を確認し、随時改善を図ります。

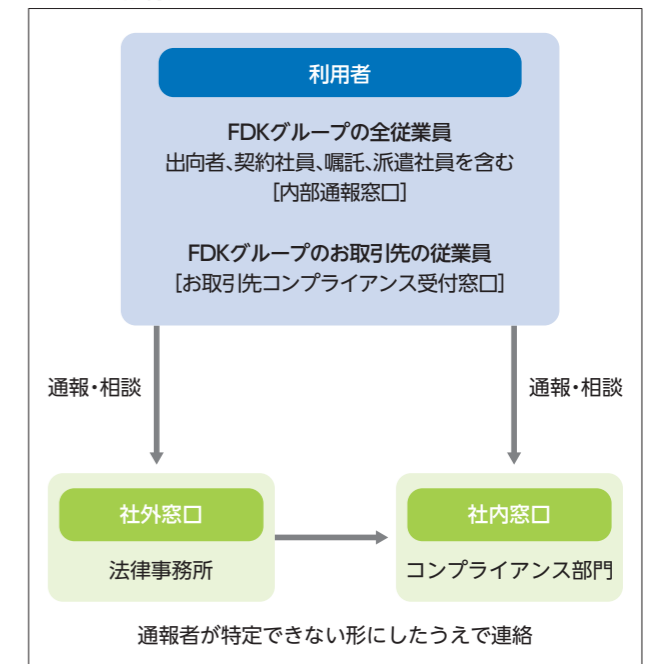
内部通報制度

FDKグループにおけるコンプライアンス違反行為に関する通報および相談の適切な処理の仕組みを定めることにより、不正行為等の早期発見と是正を図り、法令を誠実に遵守する公正な経営の強化に資することを目的としています。FDKグループでは、「内部通報窓口」および「お取引先コンプライアンス受付窓口」を設置しています。「内部通報窓口」および「お取引先コンプライアンス受付窓口」においては、「内部通報規程」によって通報者の秘密が確保されるとともに、通報を行ったことによるいかなる不利益も受けないことが保証されています。通報にもとづく調査の結果、問題が認められた場合は、すみやかに改善措置を講じています。なお、2019年度は、5件の通報があり、適切な対応を実施しました。

● リスクマネジメントのプロセス図



● 内部通報制度



お客様・お取引先様とともに



社会的要請

- 製品品質・経営品質の重要性の高まり
- 社会インフラにおける安全安心ニーズの広がり

FDKのアプローチ

- エコシステムを活用し、様々なパートナーとともに提供価値を高め、お客様による電気エネルギーの様々な活用を可能にする。

お客様・お取引先様とのかかわりのハイライト

2018年度各種展示会への出展件数

5件

ISO9001 認証生産拠点数

9拠点

IATF16949 認証生産拠点数

3拠点

ISO14001 認証生産拠点数

9拠点

お客様・お取引先様とのかかわりを支える取り組み

FDKグループは、「スマートエナジーパートナーとして、先進技術を結集し、お客様に電気エネルギーを安心して効率的に活用いただき、持続可能な社会の実現と発展に貢献します。」というビジョンにもとづき、提供する製品やサービスを通じて、社会課題の解決に貢献してまいります。

人々の暮らしと社会を支える企業と個々のユーザーに、クリーンかつ、安全な電気エネルギーを安定的に活用できるオフリングをお届けする。

基本的な考え方

FDKグループは、高品質で安全でありかつ環境にやさしいお客様にご満足いただける電池・電子製品を継続的に開発・供給するという考え方のもと、社会課題の解決に貢献する製品開発、供給、品質保証体制の構築、グリーン調達の推進に努めています。

FDKグループの取り組み

環境法や環境上の規範を遵守し、地球にやさしい素材を活かした電池・電子製品を継続して提供することで、未来を育む企業としての価値向上に努めています。その一環として、これまで電池事業・電子事業で積み重ねてきた差別化技術を用い、そこから生み出される新たな付加価値が提供できる製品開発に取り組んでいます。お客様や市場が求める地球環境に配慮した、安全・安心な製品を継続して供給することを心掛け、製品開発に取り組んでいます。

2019年度におけるお客様へのご紹介

(一部2018年度開催を含みます)

①バッテリージャパン(第10回国際二次電池展)への出展

2019年2月27日～3月1日の3日間、東京ビッグサイトに開催されたバッテリージャパンに出展しました。バッテ



展示会写真1

リージャパンは、二次電池・キャパシタの研究開発・製造に必要な技術・部品・材料、装置および二次電池が一堂に会する国際商談展です。

FDKはニッケル水素電池を搭載したFDK蓄電システム(開発中)、車載、セキュリティ、医療、バックアップ用途向けニッケル水素電池、紙のように薄くて軽い薄型リチウム電池とその活用例、高電位正極材料を用いた全固体電池(参考出展)展示いたしました。

②CEATEC2019への出展

2019年10月15日～18日の4日間、幕張メッセで開催されたCEATEC2019に出展しました。CEATECは、あらゆる産業・業種による「CPS/IoT」と「共創」をテーマとしたビジネス創出のためのヒトと技術が一堂に会する場という開催趣旨の展示会です。

FDKはSMD対応小型全固体電池(参考出展)、ニッケル水素電池専用自動充電器「イージーチャージャー」、FUJITSUアルカリ乾電池「PremiumS」を展示いたしました。



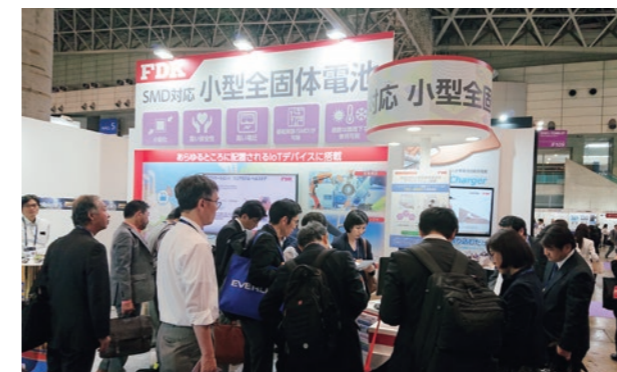
展示会写真2



展示会写真4



展示会写真5

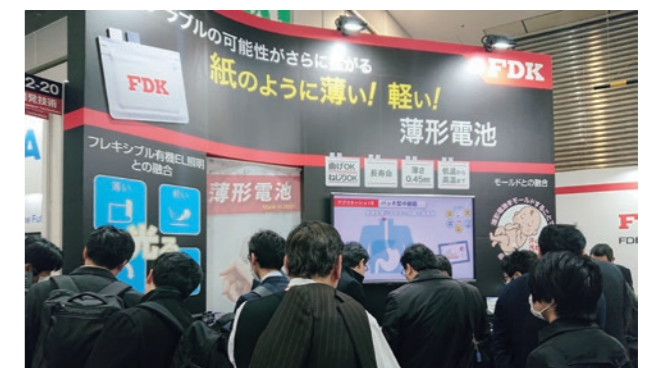


展示会写真3

③第6回鉄道技術展への出展

2019年11月27日～29日の3日間幕張メッセで開催された第6回鉄道技術展に出展しました。鉄道技術展は、鉄道・交通システムやインフラ技術、施設、電力、輸送、運行管理、車両、インテリア、旅客サービス関連他あらゆる鉄道分野の総合見本市です。

FDKは、踏切保安設備用DC24Vニッケル水素バッテリーシステム、停電時に機器にシャットダウン信号を送出する車載用バッテリーシステム、AC100V出力インバータ搭載、駅舎設備用バッテリーシステム、単三形ニッケル水素自動充電器他を出展いたしました。



展示会写真6

④第6回ウェアラブルEXPOへの出展

2020年2月12日～14日の3日間東京ビッグサイトで開催された第6回ウェアラブルEXPOに出展しました。

ウェアラブルEXPOは、最新のウェアラブル端末から、活用ソリューション、AR/VR技術、最新ウェアラブルデバイス開発のための部品・材料までウェアラブルに関するすべてが出展する展示会です。

FDKは、高電位正極材料を用いたSMD対応小型全固体電池「SoLiCell TM」(参考出品)や薄型リチウム電池とその活用例などを出展いたしました。

● 2019年度の実績

<p>製品</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ニッケル水素電池 家電市場向け製品に加え、車載アクセサリ、電源バックアップ、モビリティ、社会インフラ向けなどの製品開発および供給に努めました。 ● アルカリ乾電池 耐漏液性や長期保存性能を改善した安全・安心なアルカリ乾電池の供給に努めました。 また、環境に配慮したパッケージを開発し製品出荷を開始しました。 ● リチウム電池 スマートメータ、車載等の市場向け製品の開発、供給に努めました。ウェアラブル市場向けに薄型電池の開発を進めました。 	<p>電子</p> <ul style="list-style-type: none"> ● お客様へ小型・軽量化の提案を行い、開発に努めました。また、センシング技術・ワイヤレス技術を活用した製品の開発および供給にも努めました。 ● 環境配慮設計の装置用電源の開発、供給に努めました。 <p>研究開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ● SMD対応小型全固体電池の量産化に向けた取り組みを進めました。また、同じく次世代電池の一つである大容量・安価・高耐久な水素／空気電池の開発に努めました。
--	---

品質および安全に配慮した製品の開発と品質保証

【FDKグループ品質憲章】

品質方針

「お客様の信頼に応える品質の提供」

理念

品質第一を基本的な考え方として、高品質で安全な環境にやさしい、お客様にご満足いただける製品を開発・供給して社会に向け貢献することを使命とします。また、企業責任を問われる重大な品質事故や世界各国の法規制違反など絶対に起こしてはならないと認識しています。

そのため、営業から研究・企画・開発・設計・生産さらに顧客サービスなどのステップにおいて、全部門がお客様起点で行動して、より確かな品質経営を実行します。

▶ 1. 品質行動指針

1. お客様の品質要求事項は、最優先事項として迅速かつ適切に行動し顧客満足度を向上する。



2. 開発段階での源流活動を強化し、品質・価格・納期・環境を作りこみ、量産段階における品質トラブルの未然防止、採算性の向上、納期の厳守、環境保全の向上につなげる。
3. 製品安全・製品含有化学物質など各種コンプライアンスに関わるリスク管理を継続強化する。
4. モノづくりの改善活動により、工程仕損、クレームによる損失などの品質ロスを徹底して削減する。
5. 品質マネジメントシステムを継続的に改善して、より効果的な品質経営を行う。

▶ 2. 品質保証体制

FDKグループは、品質方針・品質行動指針を実現するために、品質マネジメントシステムを構築し、品質保証活動に継続的に取り組んでいます。

▶ 3. ISO9001/IATF16949 認証取得状況

FDKは、品質マネジメントシステムを構築し、継続的なプロセス改善に取り組んでいます。2020年3月時点で海外拠点を含めた9拠点でISO9001認証を取得し、うち3拠点でIATF16949認証を取得しています。

▶ 4. 品質保証の取り組み

①品質保証体制

お客様が要求する機能・性能・その他の内容を満足する製品・サービスの品質を提供するためには、経営層を始めとする様々な部門が連携して企業活動の全プロセスにわたっての全員参加活動が必要と考えています。FDKでは品質マネジメントシステムを構築しており、製品企画から製造・出荷・アフターサービスに至るまでの各プロセスでお客様にご満足していただける品質を実現し保証してまいります。

②品質保証の推進体制

FDKは、多岐にわたる製品群、海外を含めた各事業拠点の品質保証活動における連携活動にも取り組んでいます。品質保

証統括部では、その活動を活性化するため全事業部との情報共有、品質方針の策定、コンプライアンスに関わる問題や品質トラブル発生時のエスカレーション、人材育成のための教育、不具合事例やノウハウなどについての水平展開にも積極的に取り組んでいます。また経営トップ主催による「全社品質管理委員会」を設置しており、全社的に経営面からのアプローチも行っています。

品質保証強化への取り組みの改善プロセス

▶ 1. 品質保証活動の強化

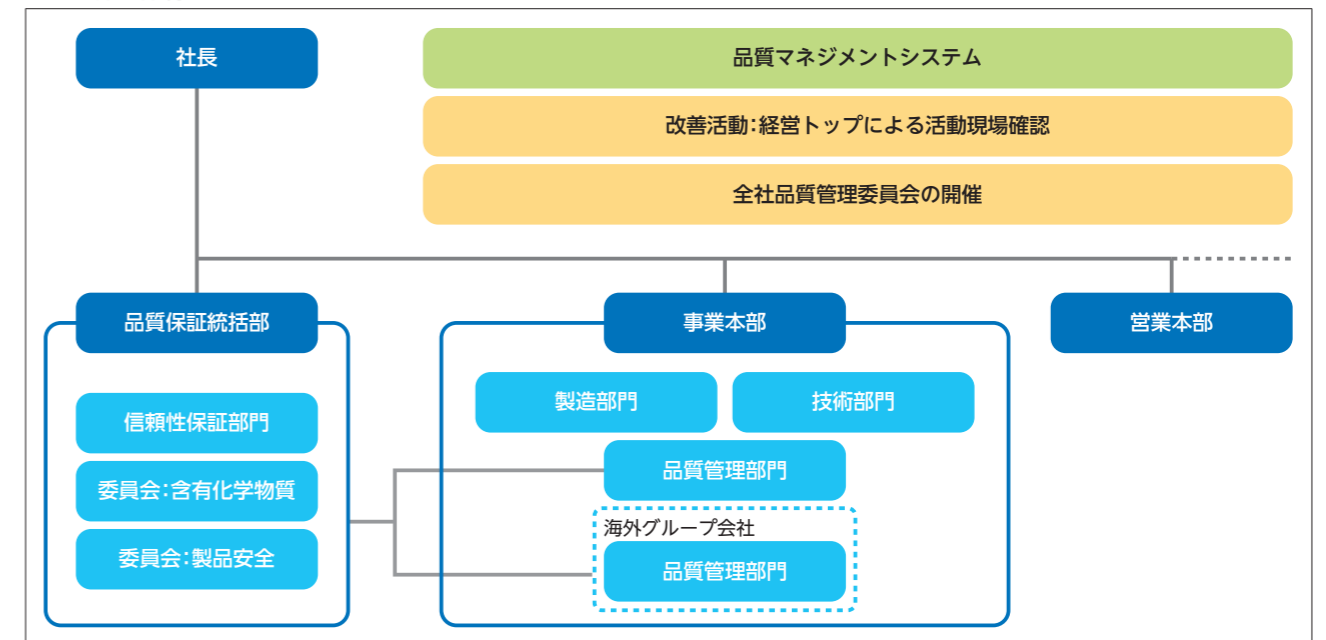
FDKグループの品質方針である「お客様の信頼に応える品質

の提供」を実現するために、製品企画から量産移管に至る各検証プロセスにおいて、品質関連規定等にもとづき、自部門だけでなく関係部門も交えた広い知見でレビューし、より客観的な検証を強化しています。

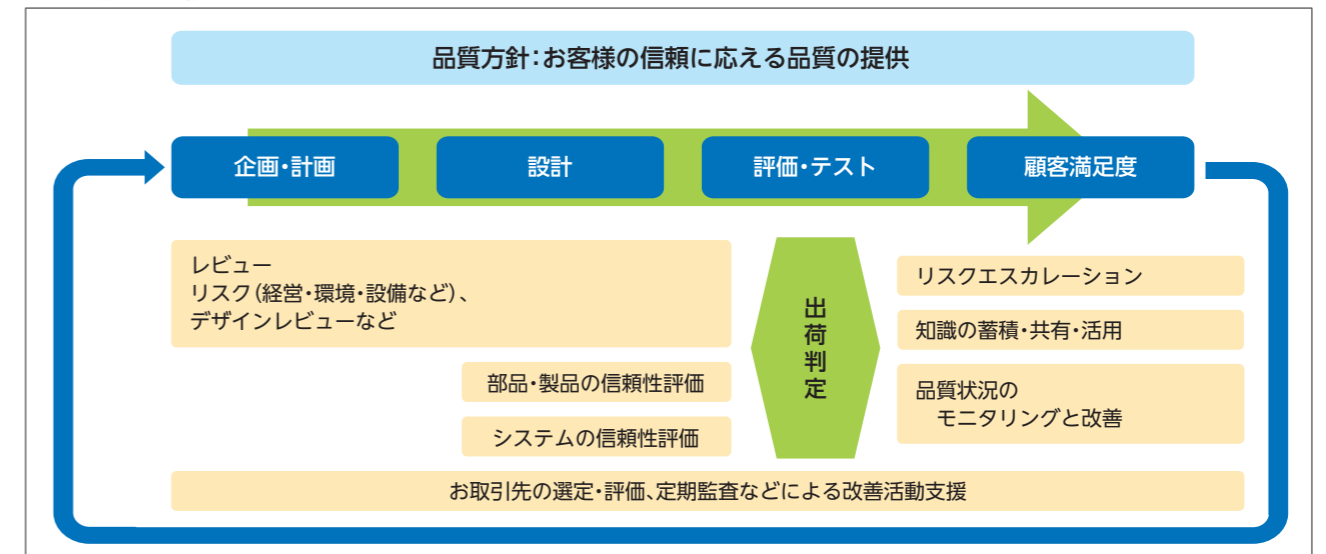
▶ 2. グリーン調達活動の取り組み

FDKグループは、環境負荷を考慮した事業活動と環境に配慮した製品の供給により、持続可能な社会の実現と発展に貢献しています。各物資の調達は、「FDKグループ グリーン調達基準」にもとづいた環境に配慮した物資の調達を行い、環境に配慮した物資の使用を通して、お客様へ環境配慮製品を提供しています。

● 品質保証体制図



● 品質保証の各検証プロセス図



社会とのかかわり



社会的要請

- 公開すべき情報の的確な開示
- ステークホルダーとの対話機会の充実
- 非財務情報開示要請の高まり

FDKのアプローチ

- ステークホルダーとの対話と協力
- 情報提供要請に対する適切な情報開示
- 地域社会・地域住民等への社会貢献活動

社会とのかかわりのハイライト

工場見学受け入れ件数	乾電池教室開催件数	インターンシップ受け入れ件数	地域での清掃活動件数
8件	2件	9件	16件
株主・投資家との対話件数	お客様よりのCSR/紛争鉱物調査対応件数	地域イベント参加数	
162件	160件	8件	

社会とのかかわりを支える取り組み

ステークホルダーとの対話と協力

基本的な考え方

FDKグループは、良き企業市民としてステークホルダーの多様な期待と要請を理解して、企業活動を実施しています。公開すべき情報を的確に開示し、ステークホルダーとの対話を行い、事業活動への反映を通じて社会に貢献する企業活動を継続的に行うことによって、企業価値の向上に努めています。

取り組み事例① 2019年度の目標と実績

2019年度の目標

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ① CSR報告書の発行 ② お客様
情報開示要求に対する適切な対応 ③ 株主・投資家
株主総会、IRミーティング、ホームページ上の情報開示、経営方針・決算説明会などの対話の実行に向けた検討 | <ul style="list-style-type: none"> ④ 取引先
双方向コミュニケーションの充実 ⑤ 従業員
労使対話、従業員満足度調査、経営トップとの対話 ⑥ 地域社会・地域住民等への社会貢献活動の継続実施
地域住民交流会への参加、各地域清掃活動への参加、工場見学の受け入れ、乾電池教室の開催、インターンシップの受け入れ募金活動、献血などに継続して取り組みます。 |
|--|---|

2019年度の実績

- ① 2019年版CSR報告書を発行し、情報開示に努めました。
- ② お客様への対応
会社概要等のお問い合わせに対し、適切な情報提供を行いました。
- ③ 株主・投資家
年間で162件のお問い合わせをいただき、適切な説明を行いました。
- ④ 取引先
部材調達先、人材派遣、業務委託、産業廃棄物処理委託会社などに対してCSR調査を実施しフィードバックを行いました。
- ⑤ 従業員
労使懇談会を毎月開催しました。また、従業員満足度調査を実施しました。
- ⑥ 地域社会
地域社会への貢献活動に継続して取り組みました。

取り組み事例② 地域社会への貢献活動

事業を活かした主な地域・社会貢献活動

<ul style="list-style-type: none"> ・湖西工場 乾電池教室 	<ul style="list-style-type: none"> ・湖西工場 湖西科学体験ブース参加 
<ul style="list-style-type: none"> ・鷺津工場 鷺津小学校工場見学受け入れ 	<ul style="list-style-type: none"> ・鷺津工場 静岡大学工学部工場見学受け入れ 

本 社	台風15号で被災された地域へ乾電池等を提供 太陽とツナガル電池の首コンサートへの協賛
湖西工場	乾電池教室の開催 インターンシップ受け入れ
鷺津工場	乾電池教室の開催 工場見学・インターンシップの受け入れ
高崎工場	インターンシップ受け入れ 高等特別支援学校より現場実習生を受け入れ
鳥取工場	工場見学・インターンシップの受け入れ

地域社会への主な貢献活動

<ul style="list-style-type: none"> ・湖西工場 浜名湖クリーン作戦 	<ul style="list-style-type: none"> ・鷺津工場 工場前県道清掃 	
<ul style="list-style-type: none"> ・高崎工場 高崎まつり ごみ分別回収協力 	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥取工場 道の駅花壇とプランター花植え替え 	<ul style="list-style-type: none"> ・FDK エンジニアリング クリーン作戦 

従業員とのかかわり

社会的要請

- 働き方改革、働きやすい環境整備
- 均等な雇用(定年再雇用、障がい者の雇用、女性活躍推進)

FDKのアプローチ

- 多様性の受容
- 働きやすい職場環境の整備
- 地球と社会に貢献する人材の育成

従業員とのかかわりのハイライト

人権に関するカリキュラムを組み込んだ教育・研修の実施回数	女性管理監督職人数	女性社員の雇用比率	育児休職制度の利用者数
5回	3人	18.7%	8人
外国人従業員比率(国内事業所)	有休取得日数/人/年	時間外労働時間数/人/月	2019年度障がい者雇用率
0.86%	15.3日	13.2時間	2.2%

従業員とのかかわりを支える取り組み

多様性の受容

基本的な考え方

方針

FDKグループでは、企業と個人がともに成長できるよう、国籍、性別、性的指向、年齢、障がいの有無、宗教、価値観にかかわらず、多様な人材を受け入れ活かすことを方針としています。

あるべき姿

FDKグループで働くすべての人が、あらゆる差別を排除し、多様な人材を受け入れそれらの行動を実践している状態のあるべき姿と考えています。

取り組み事例① 人権尊重の取り組み

12月の人権週間に合わせて人権啓発活動を行い、人権尊重の意識を広げる。

人権についての活動内容

- 人権意識の向上を目的としたセミナーの開催
- 「人権啓発リーフレット」の全員配布
- 人権についての相談窓口の設置
- 職場の環境整備(多目的トイレ設置、バリアフリーなど)
- 同性パートナーに係る社内規定の改定検討
- 人権に関する教育・研修

各研修カリキュラムに人権研修を組み込み、積極的に人権について考える機会を設ける。

- マネジメント研修
- 新任課長研修
- C1昇格者研修
- 中堅社員研修など

取り組み事例② ダイバーシティの取り組み

女性社員の活躍機会の拡大と支援を目的として「女性活躍支援プロジェクト」を発足し、「女性活躍支援室」を設置しました。2017年4月1日付けで「女性活躍支援室」を「ダイバーシティ推進室」へ改称しました。

ダイバーシティ推進室は、「多様性の尊重」と「働きやすい職場環境整備」に取り組んでいます。

ダイバーシティ推進室は、コーポレート担当取締役のもと、室長、室員、推進メンバー(各事業所から選任)および人事、労働組合からのアドバイザーで構成する組織です。

ダイバーシティ推進体制

2014年度より女性社員の働きやすい環境整備を進めてきましたが、その後、男女にかかわらず個の成長とそれによる新しい価値の創造を目指し、「多様な人材の活躍支援」と「多様な働き方の実現」の2つを軸にダイバーシティを推進しています。

方針

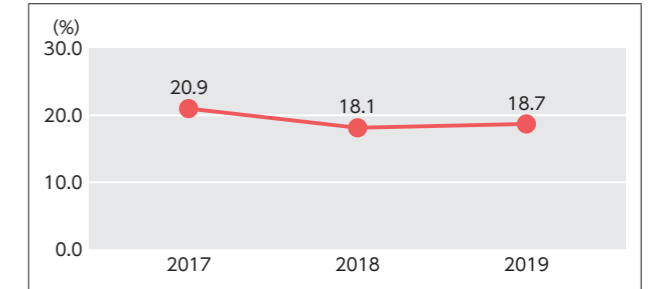
従業員満足度調査で抽出された課題、ダイバーシティに関するアンケートの結果等により、次の2点を掲げ推進しています。

1. 個人の成長・やりがいの向上
一人ひとりがお互いを認め、自分ならではの付加価値を発揮し、組織に貢献する。
2. 企業の競争力の強化・成長
多様な視点から自由闊達に議論することで、新たな知恵と技術を創造し続ける。

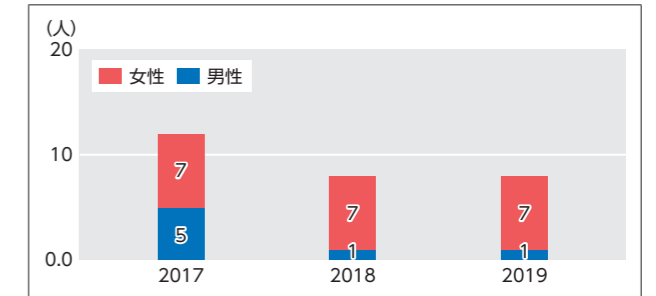
「ダイバーシティ推進室」活動実績

- 意識改革・組織風土改革
女性キャリアアップ研修開催
女性社員のさらなる活躍、意識向上を期待し、将来のリーダーの育成を目的とした女性向けの研修を開催しました。
- 働きがい向上
リーダーシップ研修
キャリア形成の構築と支援
キャリアデザイン研修の実施
- ワークライフバランスの意識向上
業務の標準化、マニュアル化等
- 定年退職後に向けた取り組み
ライフプランセミナーの実施
- 女性活躍推進法の推進
女性の意識改革と監督職の増員

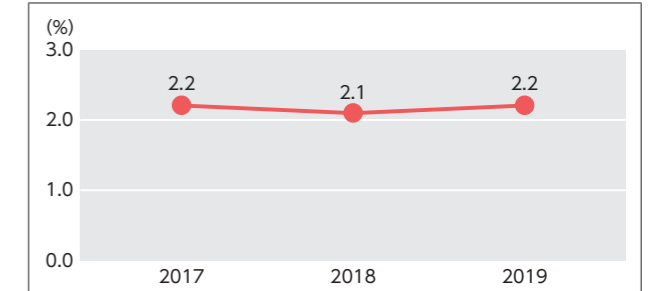
●女性社員の雇用比率



●育児休暇制度の利用者数



●障がい者雇用率の推移



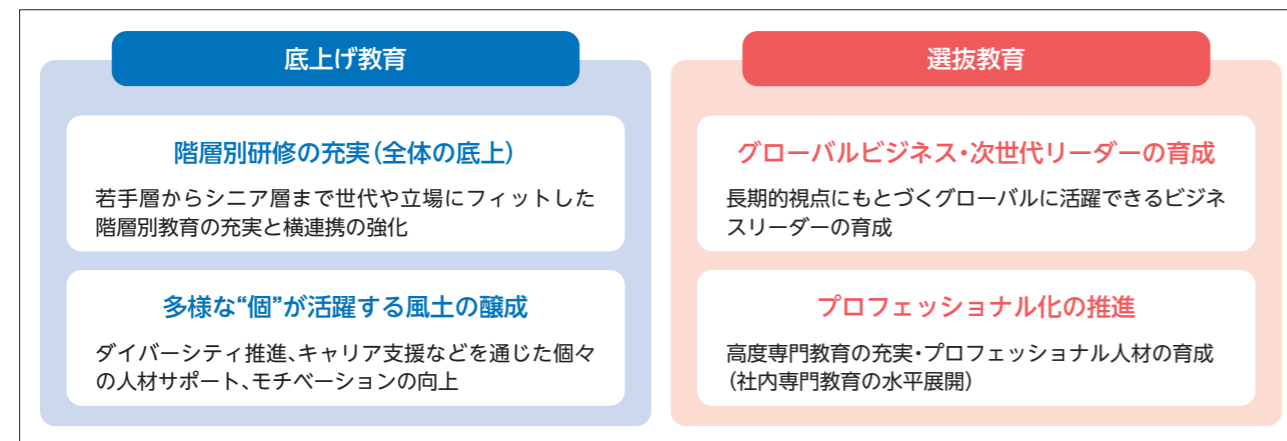
女性キャリアアップ研修会写真

地球と社会に貢献する人材の育成

取り組み事例③ 人材育成方針

▶ 人材育成のテーマ

FDKグループの人材育成については大きく4つのテーマに分けて考え、それぞれのテーマに沿った教育に取り組んでいます。



取り組み事例④

▶ 階層別研修

法令遵守への意識向上やCSRの知識、職場におけるリーダーシップなど、階層ごとに必要な知識やスキルの習得を目指した研修を実施しました。

- 新任部長研修
- 新任課長研修
- C1昇格者研修
- 中堅社員研修(ベーシック、アドバンス)
- 新入社員研修



社内研修写真3



社内研修写真4



社内研修写真1



社内研修写真2



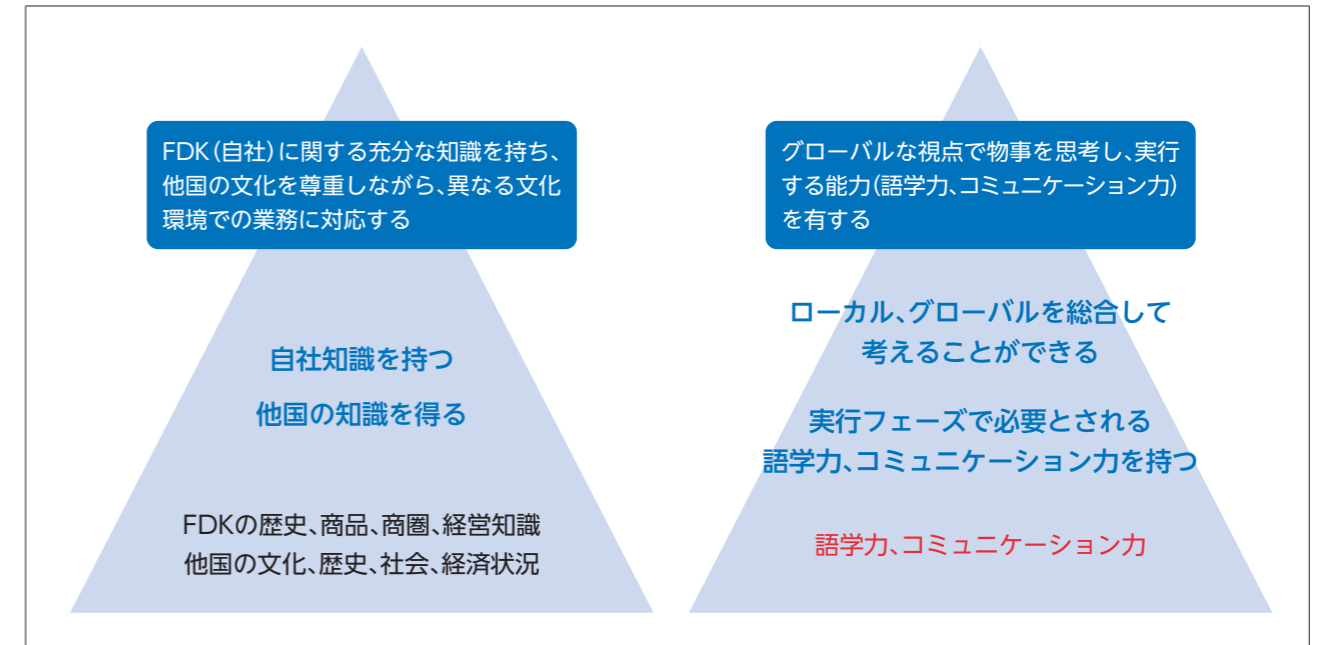
社内研修写真5

グローバルビジネスリーダー育成

FDKグループでは、グローバル人材を「自社に関する十分な知識を持ち、他国の文化を尊重しながら、異なる環境での業務

に対応する」「グローバルな視点で物事を思考し、実行する能力(語学力、コミュニケーション力)を有する」と定義しています。

● グローバル人材イメージ図



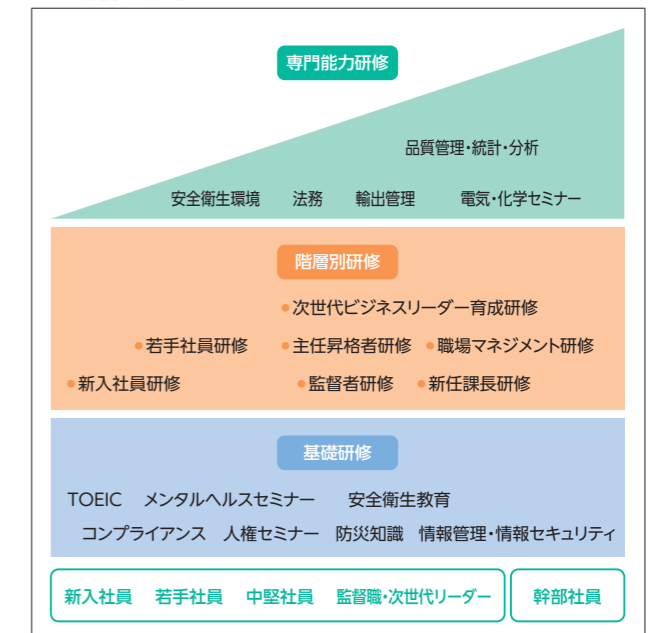
▶ 次世代ビジネスリーダー育成

FDKでは、社会とのかかわりを見据えた広い視野を持つ「主体的で自立した個」を育成し、社員の意識改革、思考改革を社内に展開、普及させていくことで、環境の変化を機敏に察知し変化に対応できる強い組織の実現を目的とした次世代ビジネスリーダー育成のための研修を実施しています。この研修は、漏れのない発想・新たな発想・気づく力を向上させるため、様々な視点で物事を見て考えることを主体にしています。

人材育成体系

全社員が共有すべき知識や技能および基本行動に関する「基礎研修」新入社員から幹部社員までそれぞれの立場・役割に応じた「階層別研修」そして職種の専門性を高める「専門能力研修」の3区分に応じた教育を実施しています。

● 人材育成体系図



社会的要請

- 環境負荷低減
- 地球温暖化防止
- 廃棄物の削減

FDKのアプローチ

- 環境配慮製品の提供
- 生産性向上、設備の計画的更新
- 有価物への転用、分別の徹底

環境保全活動のハイライト

第9期環境行動計画 目標6項目うち	環境配慮設計	温室効果ガス削減	エネルギー効率改善 4拠点中
5 項目達成	目標達成	目標達成	目標達成
化学物質削減 4拠点中	廃棄物削減 4拠点中	地域環境・社会貢献	
目標達成	目標達成	目標達成	

環境保全活動の取り組み

地球環境保全への対応

基本的な考え方

FDKグループは、富士通グループの一員として企業の事業活動に伴う環境保全の取り組みについて、各国、地域の法規制対応や、温室効果ガス削減、廃棄物削減、化学物質管理の徹底のみならず、提供する製品を通しての環境負荷低減等、地球規模の視点で主体的に持続可能な循環社会実現に向けて行動しなければならないと認識しています。全社的に、より確かな環境経営を推進するため、「FDKグループ環境憲章」を制定しています。

FDKグループ環境方針に定める行動指針

1. ISO14001に準拠した環境マネジメントシステムにより環境管理を推進し、継続的な改善を図ります。
2. 持続可能な自然の利用、気候変動対策、生態系の保護、および環境汚染の予防を推進します。
3. 事業活動に係わる環境関連法規制および行政との協定など合意した要求事項を遵守します。

4. 次の事項を重点テーマとして、該当する部門にて取り組みます。
 - (1) 環境に配慮した製品開発を推進します。
 - (2) 省エネルギーを推進します。
 - (3) 化学物質を適正に管理します。
 - (4) 廃棄物を削減し、リサイクルを推進します。
 - (5) 地域の環境貢献、社会貢献活動を推進します。
 - (6) 取引先様・お客様でのCO₂排出量削減の取り組みを推進します。
5. この環境方針を達成するために環境目的・環境目標を設定し、FDKグループの関係・グループ会社を含む全社員をあげて環境管理を推進します。
6. この環境方針は、FDKグループ敷地内の関係・グループ会社を含む全社員に周知するとともに一般の人にも開示します。

FDKグループ環境憲章

FDKグループは、以下の理念のもと、スローガンを定め、環境経営を推進してまいります。

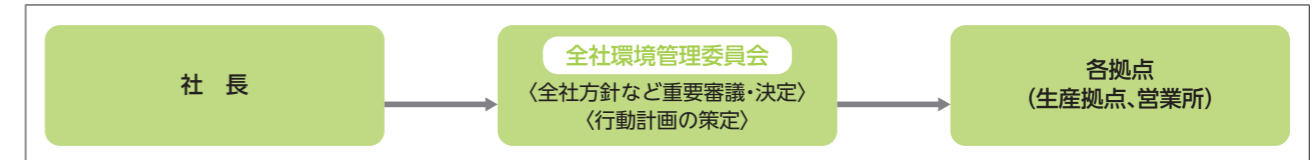
〈理念〉

FDKグループは、Smart Energy Partnerとして、先進技術を結集し、お客様に電気エネルギーを安心して効率的に活用いただき、持続可能な社会の実現と発展に貢献します。また、FDKグループは、豊かな自然・美しい地球環境を次世代につたえていくため、環境法や環境上の規範を遵守した公正な企業活動を通じ、関係・グループ会社を含む全社員をあげて環境への取り組みを推進してまいります。

〈FDKグループ スローガン〉

FDKグループは地球を愛します かぎりある自然のために

FDKグループ環境管理体制



FDKグループ第9期環境行動計画

FDKグループでは、富士通グループ環境行動計画に準拠した計画を策定し、環境への取り組みを推進しています。これらの方針・目標などを通じて、全事業領域にわたり計画的かつ継続的に環境保全活動を展開し、自社の環境負荷低減に

努めるとともに、お客様・社会の環境負荷低減にも貢献しています。2019年度は以下の結果となりました。目標の達成に向けまして、引き続き継続した改善を進めてまいります。

● FDKグループ第9期環境行動計画 2019年度実績

項目	行動計画	全体(達成率)
環境配慮設計	エネルギー効率改善(省エネルギー)に寄与する電池・電子製品を、国内グループ全体で年6件以上開発する	○
	資源効率改善(省資源)に寄与する電池・電子製品を国内FDKグループ全体で年3件以上開発する	×
温室効果ガス削減	国内FDKグループ全体でエネルギー消費CO ₂ 排出量を、2020年度末までに、34,568t以下に抑える	○ (111%)
エネルギー効率	使用しているエネルギーについて、エネルギー消費原単位を指標として、各拠点で前年度比1%改善する	○ (100%)
化学物質削減	使用するPRTR法対象物質について、排出量原単位を指標として、各拠点で2020年度末までに2015年度比5%改善する	○
廃棄物削減	発生する廃棄物について、発生量原単位を指標として、各拠点2020年度末までに2015年度比5%改善する	○ (108%)
地域環境・社会貢献	地域の環境貢献・社会貢献活動の取り組みを、国内FDKグループ全体で年25件以上実施する	○

「太陽とツナガル電池の音コンサート」

FDKでは社会・環境貢献活動の一環として、希少楽器であるクラビオーラの世界唯一の奏者である折重由美子氏による、太陽光で充電したニッケル水素電池のみを電源に使用した「太陽とツナガル電池の音」コンサートをサポートしています。FDKグループは、これからも自社の事業を活かした社会・環境貢献活動に取り組んでまいります。



コンサート写真2



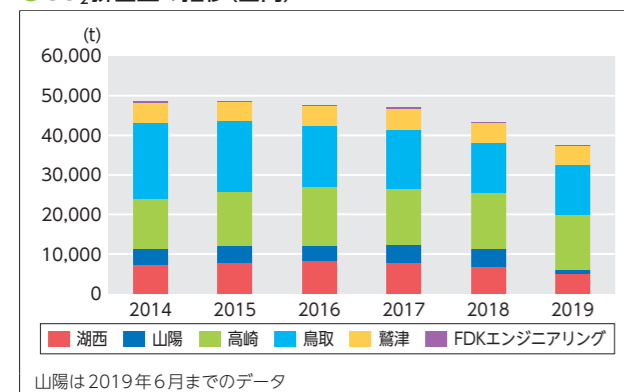
コンサート写真1



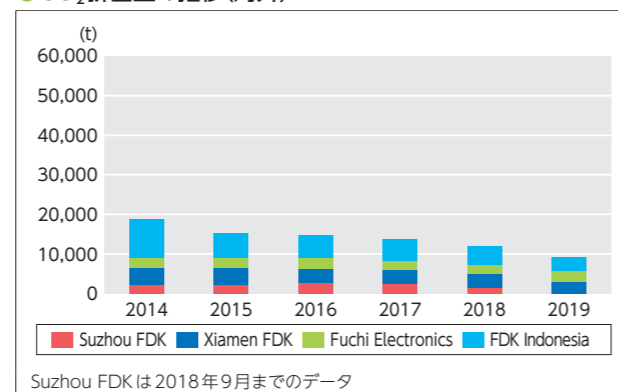
コンサート写真3

▶ CO₂排出量の推移(国内、国外) 2014年度～2019年度

● CO₂排出量の推移(国内)

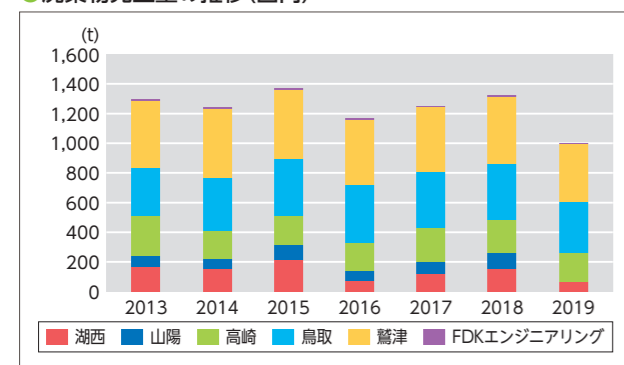


● CO₂排出量の推移(海外)

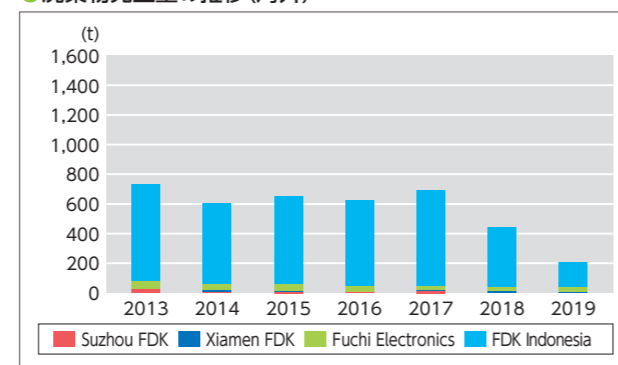


▶ 廃棄物発生量の推移(国内、国外) 2014年度～2019年度

● 廃棄物発生量の推移(国内)



● 廃棄物発生量の推移(海外)



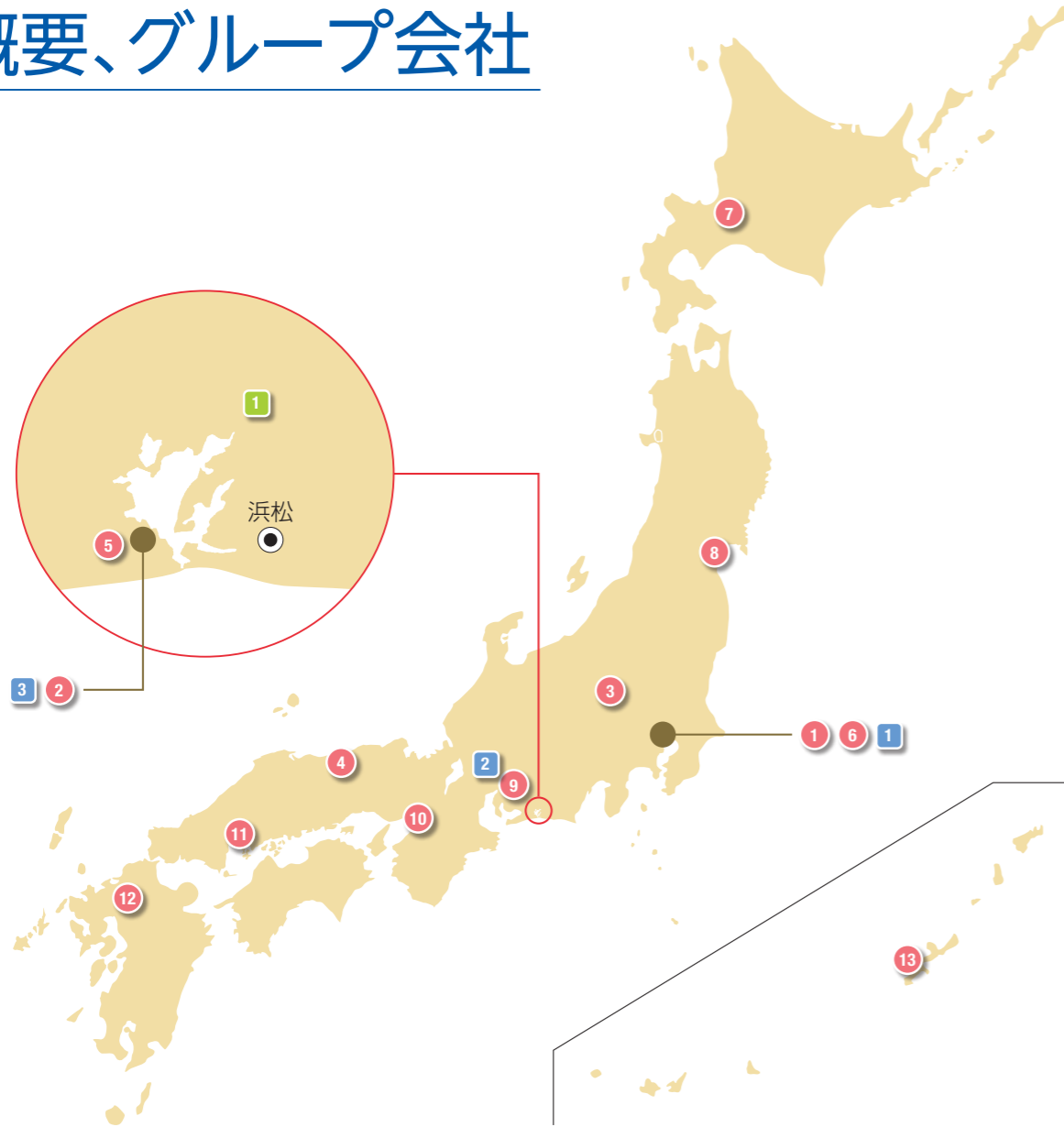
● 事業所別環境パフォーマンスデータ

項目	(単位)	湖西工場	高崎工場	鳥取工場	鷺津工場	FDKエンジニアリング
CO ₂ 排出量	2019年度	4,912	14,017	12,501	4,934	131
	前年度	6,830	14,179	12,524	5,142	158
水使用量	2019年度	82,774	22,012	67,145	44,685	480
	前年度	94,707	22,699	69,520	44,865	747
PRTR対象物質排出量	2019年度	0	0	171	0	-
	前年度	0	0	139	3	-
SO _x 排出量	2019年度	-	-	-	-	-
	前年度	-	-	-	-	-
NO _x 排出量	2019年度	344	-	2337	-	-
	前年度	375	-	1,728	-	-
ばいじん(測定濃度)	2019年度	-	-	-	-	-
	前年度	-	-	0.001未満	-	-
排水量	2019年度	82,774	20,977	35,589	44,802	480
	前年度	94,707	21,796	33,889	44,863	538
廃棄物	2019年度	67	195	346	388	4
	前年度	153	218	380	449	10

項目	(単位)	FDKエコテック	廈門FDK	富積電子	FDKインドネシア
CO ₂ 排出量	2019年度	27	3,016	2,686	3,446
	前年度	28	3,517	2,319	4,795
水使用量	2019年度	-	21,150	10,377	12,627
	前年度	-	23,608	9,040	10,087
PRTR対象物質排出量	2019年度	-	-	-	-
	前年度	-	-	-	-
SO _x 排出量	2019年度	-	-	-	-
	前年度	-	-	-	-
NO _x 排出量	2019年度	-	-	-	-
	前年度	-	-	-	-
ばいじん(測定濃度)	2019年度	-	-	-	-
	前年度	-	-	-	-
排水量	2019年度	-	16,920	10,377	11,364
	前年度	-	18,886	9,040	10,087
廃棄物	2019年度	-	10	32	166
	前年度	-	12	26	397

*「-」は、集計対象外、該当なし、または隔年で測定義務があるもので、当該年度の測定を行っていないものです。
 * 購入電力についてはCO₂換算係数を0.57t-CO₂/MWhで計算し、CO₂排出量に算入。
 * Suzhou FDKは、2019年1月をもって操業を停止したため、上記より除外いたしました。
 * 山陽工場は同工場での生産製品事業の譲渡を2019年4月に決定したため、上記より除外いたしました。

概要、グループ会社



■ 本社、事業所、営業所

本社

事業所	住所	ISO14001	ISO9000'sおよびTS/IATF16949
1 本社	〒108-8212 東京都港区港南1-6-41 (芝浦クリスタル品川) TEL:03-5715-7400	EC98J2005	-

事業所

事業所	住所	ISO14001	ISO9000'sおよびTS/IATF16949
2 湖西工場	〒431-0495 静岡県湖西市鷺津2281 TEL:053-576-2151	EC98J2005	4745
3 高崎工場	〒370-0071 群馬県高崎市小八木町307-2 TEL:027-361-7575	EC98J2005	4184927
4 鳥取工場	〒681-0063 鳥取県岩美郡岩美町太田28 TEL:0857-73-1771	EC98J2005	ISO9001:4193838 IATF16949:281965
5 鷺津工場	〒431-0431 静岡県湖西市鷺津614 TEL:053-576-2111	EC98J2005	JQA-0459

営業所

事業所	住所	ISO14001	ISO9000'sおよびTS/IATF16949
6 首都圏営業所	〒108-8212 東京都港区港南1-6-41 (芝浦クリスタル品川) TEL:03-5715-7436	EC98J2005	-
7 札幌営業所	〒060-0007 北海道札幌市中央区北7条西13-9-1 (塚本ビル7号館) TEL:011-798-4699	EC98J2005	-
8 仙台営業所	〒983-0852 宮城県仙台市宮城野区福岡4-12-1 (福岡BKテラス) TEL:022-293-5265	EC98J2005	-
9 名古屋営業所	〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅2-38-2 (オーキッドビル) TEL:052-561-3141	EC98J2005	-
10 大阪営業所	〒532-0004 大阪府大阪市淀川区西宮原1-8-29 (テラサキ第2ビル) (電池営業部門) TEL:06-6350-4883 (電子営業部門) TEL:06-6350-4877	EC98J2005	-
11 広島営業所	〒732-0052 広島県広島市東区光町2-9-27 (ユーベック光町ビル) TEL:082-535-1450	EC98J2005	-
12 福岡営業所	〒812-0038 福岡県福岡市博多区祇園町1-28 (いちご博多ビル) TEL:092-291-9421	EC98J2005	-
13 沖縄営業センター	〒901-2128 沖縄県浦添市伊奈武瀬1-9-6 (琉球通運(株)T.C.事業部内) TEL:098-868-8685	EC98J2005	-

■ グループ会社(生産関連会社4社)

事業所	住所	ISO14001	ISO9000'sおよびTS/IATF16949
1 (株)FDK エンジニアリング	〒431-1302 静岡県浜松市北区細江町広岡281 TEL:053-522-5280	EC98J2005	JQA-QMA15241
2 XIAMEN FDK CORPORATION	No. 16, Malong Road, Huoju Garden, Huoju Hi-Tech District, Xiamen, Fujian, China TEL:+86-592-603-0576	00117E20324R3M/3502	ISO9001:00117Q30657R3M/3502 IATF16949:298607
3 FUCHI ELECTRONICS CO., LTD.	No. 355, Section 2, Nankan Road, Rutsu Shan, Tao Yuan, Taiwan TEL:+886-3-322-2124	4E9E001-03	ISO9001:2015/69024.3 IATF16949:0339560
4 PT FDK INDONESIA	Kawasan Industri MM2100, Blok MM-1 Jatiwangi Cikarang Barat, Bekasi 17520 Jawa Barat, Indonesia TEL:+62-21-8998-2111	13/02329	13/02328

■ グループ会社(販売会社など10社)

事業所	住所	ISO14001	ISO9000'sおよびTS/IATF16949
1 FDK販売(株)	〒108-8212 東京都港区港南1-6-41 (芝浦クリスタル品川) TEL:03-5715-7430	EC98J2005	-
2 FDKエコテック(株) (岐阜事業所)	〒503-0322 岐阜県海津市平田町土倉字江東478 TEL:0584-66-4781	EC98J2005	-
3 FDKパートナーズ(株)	〒431-0431 静岡県湖西市鷺津2281 TEL:053-576-3121	EC98J2005	-
4 FDK AMERICA, INC.	(Head Office) 1280 E. Arques Avenue, MS310, Sunnyvale, CA 94085, U.S.A. TEL:+1-408-746-6815 (Dallas Office) 2801 Telecom Parkway, MS C1R, Richardson, Texas 75082, U.S.A. TEL:+1-972-231-2531	-	-
5 FDK ELECTRONICS GMBH	Einsteinring 24, 85609 Aschheim/Munich, Germany TEL:+49-89-3306680-0	-	91110693/2
6 FDK SINGAPORE PTE. LTD.	4, Leng Kee Road, #04-08 SIS Bldg., Singapore 159088, Singapore TEL:+65-6472-2328	-	-
7 FDK HONG KONG LTD.	Suite 1607-1608A, 16/F., Tower 3, China Hong Kong City, 33 Canton Road, Tsim Sha Tsui, Kowloon, Hong Kong TEL:+852-2799-9773	-	-
8 FDK KOREA LTD.	11F, Kyobo Life Insurance Bldg., 1, Jong-ro, Jongno-Gu, Seoul 03154, Republic of Korea TEL:+82-2-582-8452	-	-
9 FDK TAIWAN LTD.	8F.-4, No.57, Sec. 1, Chongqing S. Rd., Zhongzheng Dist., Taipei City 100, Taiwan TEL:+886-2-2311-5161	-	-
10 FDK (THAILAND) CO., LTD.	408/150, 35th Floor Phaholyothin Place Building, Phaholyothin Road, Khweng Samsain-nai, Khet Phayathai, Bangkok 10400 Thailand TEL:+66-2-163-4664	-	-

* ISO14001、ISO9000'sおよびTS/IATF16949など、第三者認証取得状況は、2020年3月31日現在

